

Childline Annual Report 2024

チャイルドラインのミッション

子どもの権利条約の理念に基づき
子どもの「声」を受けとめることで
子どもがありのまま
安心できる心の居場所を作ります
また、受けとめた「声」を社会に発信し
子どもが生きやすい社会を目指します



2024 チャイルドライン年次報告 目次

ごあいさつ	2
チャイルドラインとは	4
チャイルドラインからの提言	
「学校における『聴かれる権利』を保障する」	6
「おとなにいいたいこと」	12
子どもの「声」を受けとめる	
子どもの「声」	14
受けとめた「声」のデータ	16
子どもの生きやすい社会をめざす	
集計データから、子どもたちの状況を読み解く	27
子どもへの広報	28
チャイルドライン全国キャンペーン	30
公開講演会 子どもSOSに気づいていますか?～すべての子どもの聴かれる権利が保障される社会に～	31
チャイルドライン支援議員連盟総会・勉強会	32
チャイルドライン実施体制と運営	
チャイルドライン実施団体	34
チャイルドライン支援センター	37
ご支援・ご協力一覧	38
パブリシティ	40

編集後記

※百分率で表しているデータは四捨五入の関係で合計が100%にならないことがあります。
※事例は、個人が特定できないようプライバシーに配慮して再構成しています。
※「子どもからの質問・意見・感想」はチャイルドラインのウェブサイトを通して寄せられたものです。(公表することを明記し募集しています。)

ごあいさつ

子どもの声がとどく社会をめざして

日本の小中高生の自殺者数が 2022 年度過去最多の 514 人、2023 年度 513 人と高止まりしている現状を受けて、子どもの権利や子どもに支援に関わるおとなが様々な対策を検討しています。

2023 年、ホームページ上から子どもに「子どもの自殺をなくすためにおとなができること」を尋ねた結果、「子どもの話を否定せずに聴いてほしい」という回答が多くありました。聴いているつもりのおとなは多いかもしれませんが、子どもは聴いてもらっているとは思っていないということがわかりました。

「ひとりの主体的な人間として最善の利益の実現を一緒に考えてもらえたとき、自分を否定されずに最後まで聴いてもらえたとき、子どもは聴いてもらえたと感じる」とチャイルドラインは考え、子どもに耳を傾けています。コロナ禍のコミュニケーションが遮断されたなかで、子ども期を過ごした子どもたちが友だちとの距離の取り方に苦労している様子が、チャイルドラインの電話やチャットに入ってきています。コロナ禍では、わたしたちおとなも雑談できる関係性がどれだけ大切かということにあらためて気づかされました。子どもたちは「話せる場」を必要としています。ひとは日常的に雑談し、お互いの存在をありのままに認め合うことで、信頼関係を築き、ほんとうに困ったときに相談できると考えられます。

チャイルドラインは「子どものこころの居場所」をめざして 25 年以上にわたり活動を進めてきましたが、現状に向き合い、活動を積み重ねるほど、多くの課題が子どもの自己肯定感の低さに起因すると感じます。子どもの存在を肯定できる環境にしていくことが子どもの生きやすさに繋がり、ひいては自殺予防対策の基盤になるのではないのでしょうか。

チャイルドライン支援センターが発足して 25 年を迎えました。子どもに関わる多くの課題がありますが、25 年間の子どもの声の蓄積と全国 69 実施団体というネットワークの強みを生かして、これからも「子どもの生きやすい社会」をめざしてまいります。

最後になりましたが、日ごろチャイルドラインを支えてくださっているみなさまに心より感謝を申し上げますとともに、これからも子どもたちのためにご支援、ご協力くださいますようお願い申し上げます。



特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター（認定NPO）
代表理事 平井貴美子

チャイルドライン 25 周年を迎えて

これまでチャイルドラインを応援して下さったみなさまに厚く御礼申し上げます。チャイルドラインが日本で誕生して 25 周年となります。1998 年に第 1 回せたがやチャイルドラインが開設（2 週間限定 24 時間体制）されたことが始まりです。団体毎の電話番号から始まった電話の実施は、2009 年に同じ電話番号で全国どこからでもかけられる「統一番号フリーダイヤル」となりました。また、電話以外のツールを模索した結果、2016 年オンラインチャット、2020 年コロナ禍をきっかけに「つぶやく」を開始しました。様々な手段で子どもの声を受けとめ、2024 年現在、全国 40 都道府県 69 団体及び 1 準備団体まで広がっています。

1998 年以降の子どもの状況は、様々な社会変化を背景に、数々の少年事件が発生し、虐待死、いじめ等による自死など、子どもたちが被害者にも加害者にもなっていました。1998 年に 6,932 件だった虐待相談対応件数は、2022 年度には 219,170 件（こども家庭庁）と 30 倍以上、いじめの認知件数は、36,396 件から 681,948 件（文部科学省）と 18 倍以上となっています。子どもの自殺者数は、1979 年の 380 人をピークに減少傾向にありましたが、1998 年 192 人に再び増加、2022 年には過去最多の 514 人（厚生労働省）となっています。

こういった子どもの状況を背景に始まったチャイルドラインは、子どものありのままを受けとめ、指示や指導をしないで、傾聴することを基本とする市民活動として、四半世紀たった今も社会や子どもから必要とされています。過酷な状況に置かれている子どもたちの存在を前に傾聴にとどまらず、さらに救済制度へとつなげていくことも求められているのです。

そこにどう応えていくのかを考えると、受容・共感を前提に、子どもアドボカシーを意識した意見形成支援の一助として、市民活動としての限界を踏まえつつ、これからのチャイルドラインの在り方を子どもと共に考えていく節目にきています。

2023 年度スタートしたこども家庭庁は、「子どもの権利」を謳い、子ども施策を打ち出していく上で必ず「子どもの声を聴くこと」と発信しています。子どもの声を受けとめ続けて来たチャイルドラインに、「子どもの声をどうしたら聴けるのか」という問い合わせが様々な方面からくる状況ともなっているのです。

子どもとチャイルドラインをこよなく愛した初代共同代表の牟田悌三は 2003 チャイルドライン年次報告の中で、「自

分で『考える』ことによって自分の論理を作り上げることが、自己確立への道だと私は考える。自分で考えるきっかけづくりをすることも、チャイルドラインの重要な使命ではあるまいか。」と語っています。

今まで関わった受け手や支え手等のボランティアは、何万人ともなっています。チャイルドラインという子どもと向かい合う活動を通して、子どもを主体とした子どもの権利条約に基づいた子ども観を持つおとなを増やすことは、豊かな子ども時代を保障し、子どもたちが自分らしく豊かに育つ地域社会を再構築していくことにつながっています。

私ごとは、社会ごとなのです。私ごとを私ごとで終わらせないこと。私を大事に出来ないものは、他人や、組織や社会を大事にすることが出来ません。

もう 45 年前となりますが、私が大学 1 年生のとき、教養の文学の授業でドイツの社会心理学者であるエーリッヒ・フロムの著書『愛するということ』（紀伊國屋書店 懸田克躬訳）を教科書に学ぶ機会がありました。その中で、「愛とは愛するものの生命と成長に積極的に関係することなのである。この積極的な関係が欠けているところにはいかなる愛もありえない」という一節がありました。人は、人との関わり合いの中で、成長していきます。ぶつかると、対立することも多いと思います。でも、わかり合えること、共につくり合えることも実現できるのです。

私たちは、子どもたちと共に、地域のたくさんのおとなを組織し、よりよい社会を築いていく活動を通して、これからも常に自分に向き合い、人として成長し続けることに努力していきたいと思っています。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター（認定NPO）
前代表理事 竹村 浩

チャイルドラインとは

子どもの権利条約の理念に基づき、子どもの「声」を受けとめることで
子どもがりのままで安心できる心の居場所をつくります
また、受けとめた「声」を社会に発信し、子どもが生きやすい社会を目指します

子どもの「声」を受けとめる

チャイルドラインは18歳までの子どもの「声」を聴き、その気持ちに寄り添います。子どもは、本気で自分の話を聞いてもらえた、受けとめてもらえたと感じることができれば、自分自身でその課題と向き合い、乗り越えていく力を持っています。そう信じ、ありのままの子どもを丸ごと応援するのが、チャイルドラインです。お説教抜き、押しつけ抜きで子どもの「声」に耳を傾け、どんなことも子どもと一緒に考えます。

チャイルドラインがめざすのは、「子どもの権利条約」の理念に基づく「子どもの最善の利益」の実現です。
子どもは単に守られるだけの存在ではなく、おとなと同様に権利を持ち、社会とともに創っていくパートナーです。

こころの居場所 — 4つのやくそく —

子どもが安心して話せる場となるために、チャイルドラインは子どもたちに4つの約束をしています。

- ヒミツはまもるよ
- 名まえは言わなくていい
- どんなことも、いっしょに考える
- 電話やチャットをやめたいときはいつでもやめていい

チャイルドラインの主役は子どもです。子どもを一人の人間としてその主体性を尊重します。主導権は子どもにあり、子どもがやめなくなったらいつでも話をやめることができます。

子どもの生きやすい社会をめざす

チャイルドラインは、子どもの「声」を聴いたおとなの責任として、聴いたままにするのではなく、そこから見える社会課題や子どもたちの状況を広く発信していくことで、子どもが生きやすい社会をつくっていきたくと考えています。そのため、子どもたちの声をデータとしてまとめ、分析し、社会に発信することや、講演会などで子どもの話を聴くことの大切さを社会に啓発する活動を重ねています。また、行政・企業・他団体と連携して「子どもの最善の利益」が保障される社会をつくるために何が必要かを話し合い、協働していくことにも取り組んでいます。

チャイルドラインの活動は、それに関わるおとなも人として成長する場となっています。
そして、地域の「おとな」として子どもや社会と向き合っていくことも、関わるすべての人の使命であると考えています。

日本のチャイルドラインのあゆみ

1989年	国連「子どもの権利条約」採択	2003年	地域別統一フリーダイヤルキャンペーン実施
1994年	日本において同条約批准	2007年	子どもの声を蓄積するデータベース運用開始
1997年	世田谷区の市民団体が当時の文部大臣らと英国のチャイルドラインUKを視察	2009年	全国統一番号フリーダイヤル運用開始
	超党派による「チャイルドライン設立推進議員連盟」が発足(現チャイルドライン支援議員連盟)	2016年	オンラインチャット試行開始
1998年	日本で初のチャイルドライン「せたがやチャイルドライン」開設	2018年	フリーダイヤル毎日実施となる
1999年	チャイルドライン支援センター設立	2019年	オンラインチャット正式事業化
2000年	全国「こどもの日チャイルドライン」実施	2020年	HP上に「つぶやく」設置
		2022年	ネットでんわ試行開始
		2023年	ネットでんわ定期実施開始

世界のチャイルド・ヘルプライン(CHI: Child Helpline International)などとの交流

1970年代に北欧で始まった子どものためのホットラインが世界各地に広がり、1986年虐待が問題となっていた英国でチャイルドラインUKが開設。世界をつなぐチャイルド・ヘルプライン・インターナショナル(CHI)はオランダに本部を置き、現在133の国や地域の155団体が活動している。日本のチャイルドラインはチャイルドラインUKをモデルとして始まった。チャイルドライン支援センターでは、CHIの会議への参加、開催のほか関係者を招聘した研修の実施、子どものデータ共有などを行っている。

子どもの権利条約の子ども観とチャイルドライン

「子どもの権利条約」の「子ども観」は、子どもを「主体性を持ったおとなと対等な存在」として捉え、尊重します。子どもは、おとなから保護や指導をうけるだけの存在ではなく、独立した人格と尊厳を持ち、自己決定しながら成長していくことができる存在なのです。権利とは、誰しも生まれながらにして持っている「あたりまえのこと」であり、それが守られることは「あたりまえ」のことです。

中でも、チャイルドラインが活動を通して特に大事にしたいと考えているのが、第12条「意見を表明する権利」の中の「聴かれる権利」です。子どもの意見表明は、それを受けとめる「聴き手」がいなければ成り立ちません。子どもには「聴き手」が必要なのです。チャイルドラインはこの子ども観のもと、4つの約束をすることで、子どもが安心して話せる相手、場を提供し、子どもの「聴かれる権利」を保障する役割を担っています。

子どもの権利条約

子どもがどんな権利をもっているのか具体的に記された「子どもの権利条約」は、1989年に国連で採択され、翌年国際条約として発効し、日本は1994年に批准しました。また、児童福祉法や児童虐待の防止等に関する法律(通称:児童虐待防止法)改定、こども基本法施行、こども家庭庁発足、こども大綱策定にあたっては子どもの権利条約の理念が生かされています。子どもをおとな同様に権利を持つ主体とし、おとなと対等な存在として認め、子どもの人権を保障するのがこの条約の基本です。

4つの一般原則 (こども基本法にも含まれています。)

子どもの権利条約は、4つの原則を中心に、さまざまな子どもの権利を定めています。そして子どもにとっていちばんよいこと(子どもの「最善の利益」)を実現しようと謳っています。

差別の禁止 (第2条)

すべての子どもは、子ども自身や親の人種や国籍、性、意見、障がい、経済状況などどんな理由でも差別されず、条約の定めるすべての権利が保障されます。

子どもの最善の利益 (第3条)

子どもに関することが決められ、行われる時は、「その子どもにとって最もよいことは何か」を第一に考えます。

生命、生存及び発達に関する権利 (第6条)

すべての子どもの命が守られ、もって生まれた能力を十分に伸ばして成長できるよう、医療、教育、生活への支援などを受けることが保障されます。

子どもの意見の尊重 (第12条)

子どもは自分に関係のある事柄について自由に意見を表すことができ、おとなはその意見を子どもの発達に応じて十分に考慮します。

チャイルドラインからの提言

学校における「聴かれる権利」を保障する ～ 子どもの権利が保障される社会 ～

1. 学校における意見表明支援制度の導入
2. 生徒指導提要(改訂版)の遵守
3. 学習指導要領の改訂(権利学習)
4. 教職員の働き方改革の推進
5. 1994年5月20日付 文部省(当時)坂元事務次官通知の見直し、新たな通知の発出
6. 社会全体の「子どもの権利」の理解促進
 - (1) 家庭・保護者の「子どもの権利」の理解促進
 - (2) 子どもに関連した法制化、制度化の際に「子どもの権利」を念頭におくこと

子どもの権利条約では、「子どもは権利行使主体であり、おとなと対等な存在」として捉えています。子どもは、おとなから保護や指導されるだけの存在ではなく、独立した人格と尊厳を持ち、自己決定しながら成長していくことができる存在なのです。今まさに、おとなの「子ども観」の刷新が求められているのではないのでしょうか。

また、子どもには気持ちを話す権利、意見を言う権利、いわゆる「意見表明権」があります。ただ、いくら権利があったとしても、そこに「聴いてもらえる」という安心がなければ話すことはできません。子どもが話せるような環境を作ることが「聴かれる権利」を保障することであり、チャイルドラインが長年担ってきたことです。

2023年4月にこども家庭庁が発足し、こども基本法、こども大綱に基本理念として子どもの権利条約が取り入れられ、すべての子どもの権利の保障が謳われました。

2024年4月には、社会的擁護下の子どもの権利保障のための制度が始まりました。一方、すべての子どもの権利保障、特に子どもが多くの時間を過ごす学校での聴かれる権利の保障についてはどうでしょうか。令和4年12月に生徒指導提要が改訂され、「子どもの権利」について言及されました。しかしながら学校において権利が保障されていない実態が今も子どもの声としてチャイルドラインには届いています。社会的擁護下の子どもはもちろん、そうでない子どもにも「意見形成、表明、実現が支援される権利」があることを踏まえ、学校現場における子どもの聴かれる権利の保障実現と、社会全体が子どもの権利を理解できるよう提言します。

1. 学校における意見表明支援制度の導入

独立性・専門性のある意見表明支援者を学校に配置する

教員やスクールカウンセラーなども意見表明支援者の役割を一定果たすことができますが、子どもから見ると評価する人や学校側の人です。子どもにとって利害関係がない、評価しない第三者が意見表明支援者となることで、子どもは安心して自分の意見を表明できます。

○意見表明支援制度とは、子どもが意見を表明することを支援する制度

○意見表明支援者とは、子どもの側に立ち、子どもが考える最善の利益の下に行動する人

2. 生徒指導提要(改訂版)の遵守

子どもの権利条約の理念が盛り込まれた「生徒指導提要」に提示された指導の目的、あり方を遵守する

「生徒指導提要」は、生徒指導のための手引き書です。生徒指導というと問題行動のある子どもへの指導というイメージがありますが、「生徒指導とは、児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のこと」と生徒指導提要の中で定義されています。そして、生徒指導取り組み上の留意点として、「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」「こども基本法」への理解が必要とされています。

現教職員や教員を目指す学生が「子どもの権利」を理解し、生徒指導提要どおりに実践していくことが求められます。

3. 学習指導要領の改訂・・・「子どもの権利」学習の授業科目化

全ての年代で(幼保時期から)「子どもの権利」についての学びを保障する

すべての子どもが「子どもの権利」を学ぶことができるように学習指導要領の改訂が必要です。そのためには、教職員への「子どもの権利」研修や教職課程での「子どもの権利」必修科目化なども求められます。保育園や学童保育、放課後デイサービスなど、子どもに関わるすべての人にも「子どもの権利」の理解が必要です。

4. 教職員の働き方改革の推進

教職員が時間的余裕、心の余裕をもつ

子どもの「SOSの早期発見」や子どもの話を聴くには教職員の時間的余裕、心の余裕が必須です。教職員の働き方改革を早急に進めていく必要があります。

5. 1994年5月20日付 文部省(当時)坂元事務次官通知の見直し、新たな通知の発出

1994年、日本が子どもの権利条約を批准後に発出されたこの通知の中で、「本条約の発効により、教育関係について特に法令等の改正の必要はないところであり」と記載されており、従来そのままよいと読み取れるものになっていることから、子ども権利確約の周知義務があるにも関わらず、周知が進みませんでした。こども基本法が施行された今、学校内で子どもの権利を尊重する旨の通知をあらためて発出することが求められます。

6. 社会全体の「子どもの権利」の理解促進

すべての人が「子どもの権利」に基づく「子ども観」を理解する

(1) 家庭・保護者の「子どもの権利」の理解促進

母子手帳への「子どもの権利」記載必須化(一部自治体では実現済み)や妊婦とその配偶者などへの「子どもの権利」啓発必須化(両親教室等)などにより、これから親になる人への啓発を行なうことが必要です。また、学齢期の子どもの保護者へは、研修や学校からの啓発冊子なども有効と思われます。

(2) 子どもに関連した法制化、制度化の際に「子どもの権利」を念頭におくこと

共同親権など子どもに関連する様々な法制化、制度化にあたっては、子どもの意見を尊重し、子どもの最善の利益が保障されなければなりません。

なぜ「学校における『聴かれる権利』保障」が必要か

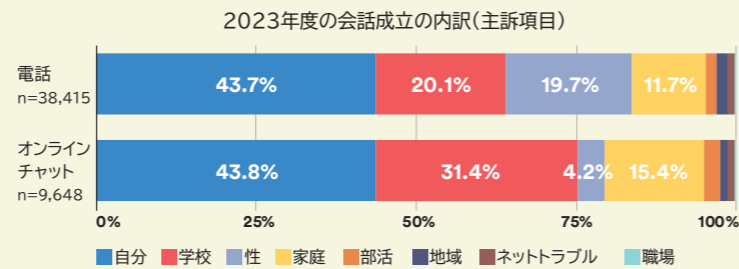
こども家庭庁が設立され、こども基本法、こども大綱で「子どもの権利」が基本理念となりました。学校での生徒指導の手引き書である「生徒指導提要」にも子どもの権利条約を理解することが必要と明記されました。

その一方で、学校での出来事に悩み、苦しむ子どもたちの声がチャイルドラインには多く寄せられています。「先生には話さない・話せない」という子どもの声からは、社会や教員への不信感が見て取れます。話しても聴いてもらえなかった体験は、「怒り」から「あきらめ」へととなり、その積み重ねが「自分自身の存在そのものを否定すること」になっていきます。いじめや不登校、自死などの子どもに関わる問題解決に向けての第一歩が「子どもの話を聴くこと」であり、さまざまな問題の予防・早期発見にもつながると考えます。多くの時間を過ごす学校は子どもにとって大きな存在です。だからこそ、「学校での聴かれる権利の保障」が必要です。

「学校」に関するデータから

主訴

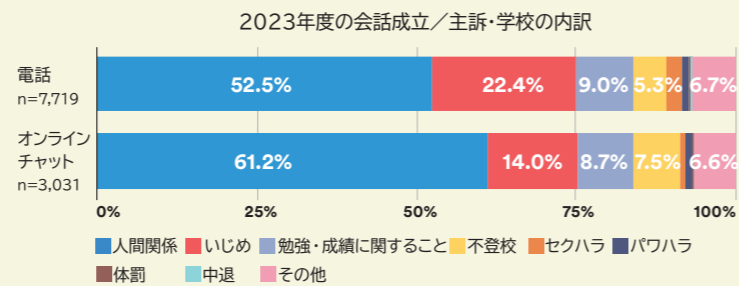
子どもからの話は、「自分のこと」に次いで、「学校」が多くなっています。1日のほとんどの時間を学校で過ごす子どもにとって、学校の存在はとても大きいと考えられます。



主訴「学校」の内訳

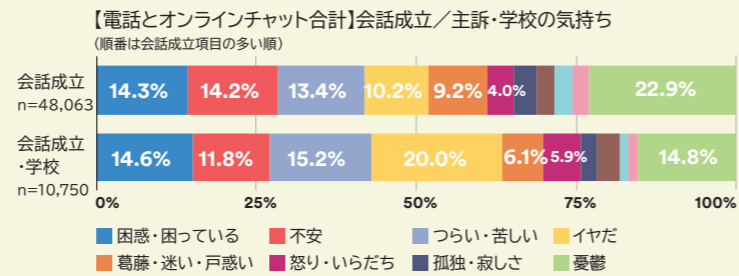
「学校」の内容をもう少し詳しくみていくと、「人間関係」が最も多く、半数を超えています。友人や先生とのやりとりの中から感じたモヤモヤや考え方の違い、気持ちのズレなどが多く話されます。

「いじめ」については、被害者からの話がほとんどですが、中にはいじめられている友人を助けたいというものもあります。



主訴「学校」の気持ち

「学校」を主訴に話す子どもは、会話成立全体と比べて「イヤだ」「つらい・苦しい」の割合が高くなっています。学校での人間関係で「イヤだった」気持ちやいじめなど起こっている出来事に対しての「つらい・苦しい」気持ちも多くなっています。



子どもの声から ※個人が特定されないようプライバシーに配慮して再構成しています。

いじめにあっている

学校で嫌なことをされて親が学校や教育委員会に言ったが解決しなかった。暴力だけを「いじめ」と言うんだな…。

私はいじめを1年生からずっと続けられていて、先生にも何回も言ったけれど、あまり怒ってくれなくて。

私は、学校で虐められています。仲間はずれにされたり、無視してきたりします。でも、誰にも相談出来ません。生きている意味が私にはあるのかを考えてしまいます。

「いじめ」は権利侵害

「いじめ防止対策推進法」では、いじめは「受けた側が心身に苦痛を感じているもの」と定義されています。いじめを受け続けると自尊感情を持てなくなります。あきらめたり自分の存在を否定したり希死念慮に至ったりする前に、子どもが相談したいと思えるような仕組み作りが必要です。そして、相談を受ける側には子どもの話を「聴く」という姿勢と子どもの権利への理解が求められます。

「生徒指導提要」等でいわれる「SOSの察知」「未然防止」実現のためにも、教員の「子どもの権利」への意識改革や話を聴く心と時間の余裕が必要です。

先生には話さない、話せない、きかれない

先生が嫌。相談しても相手にされないし、僕のことを思っているように思えない。

今年のクラスはぼっちになって、『なんで、わたしだけぼっちなんだろうな』とか些細なことで悲しくて涙が出てくる。『最近、体調がすぐれないね。なんかあった?』とか先生に言ってもらえるけど、『ぼっちだから』とか言えない。

学校に行きたくないって思う時がよくある。でも、親も先生も皆同じこと何度も思ってきたんだからとか言って私の気持ちは聞いてくれない。

「聴かれる権利」の保障

子どもの権利条約のある「意見表明権」が保障されるということは、意見表明を「聴く」人がいるということ(「聴かれる権利」の保障)です。学校では教員が「聴く」側の人になりますが、教員は「聴けていない」という声が多く寄せられています。聴かれない状況が続くことで、教員との信頼関係が築けず、ますます子どもは相談しなくなっているようです。

「聴く」とは、子どもの話を聴くのであって、教員の考えを話すことではありません。聴いているつもりでも、無意識に自分の価値観を押しつけている場合があります。まずは、子どもの気持ちを否定せずに最後まで聴くことが必要です。

先生の意見が優先

私は合唱コンクールの実行委員をしていました。練習計画は、担任に提出したら大体却下されました。紹介文は、数回直しをもらってサインをもらったけれど、そのあと担任が書いたものを渡され、検討してから提出しろと言われました。でも、せっかく考えたので、自分のを出したら、翌日、怒られました。結局先生がすべてやるのに、実行委員はいるのでしょうか？私には自分の存在意義がわからなくなりました。

「意見表明権」の尊重

「意見表明」をしてもそれを「聴かれない」なら、権利が尊重されたことにはなりません。「権利を尊重すること」と「子どもの言う通りにすること」は違います。形式的な意見表明ではなく、まずはその意見を受けとめることや、子どもに関わることは子どもの意見を聴きながら作っていくこと、実現できないことは理由を説明することが必要です。

クラスメイトとの関係

推しのYouTube 見てると元気になって、生きがいができた。でも、友だちに話したら推しのことけなされた。すごいショック。

よく相談に乗ってくれる男子友達にいろいろ自殺のこととか相談したらスッキリした！

クラスの男子にお前は人権がないって言われてとても傷ついた。クラスで話し合いが行われて、人権がないって言った子は謝った。でも何か月経っても私の記憶に深く絡みついている。あの言葉言った子は今は楽しく遊んでる。憎らしい、死にたいとは思いますが、死んじゃダメってこともわかってる。でも、辛い、逃げたい。

「子どもの権利」学習の保障

考え方や意見は違って当たり前です。同じ意見になる必要はなく、相手がそう思っているということを理解することが大切であり、それが相手を尊重するということです。権利を行使しようとする他の人の権利行使とぶつかってしまうことが多々あります。その際は、お互いに相手の権利も尊重しながら、折り合いをつけていくことが求められます。子どもにも教員にも「子どもの権利」学習が必要です。

おとな、社会へ

「大人って相談しろって言いながらそんな環境用意してくれないし、人によって言いたい、言いたくないがあるにもかかわらず大人は言ってくれと思ってる。」

「学校って集団行動ばかりで、みんなの本気の気持ちや個性がどんどんつぶされていく。もはや刑務所だね。」

「こどもまんなか社会」をめざして

おとなは環境を整えているつもりでも、その環境は子どもにとって安心できるものではなかったり、その情報が届いていないかたりしているように思えます。また、子どもの気持ちを聴くことなく進められていたり、「個性や多様性の尊重」と言われながら同調圧力が強かったりする現実がまだまだあります。一人ひとりの子どもを真ん中にした「学校」「社会」の構築が急ぎ求められます。そのためには、教員の働き方改革やすべての人への「子どもの権利」学習が必要だと考えます。

「学校における『聴かれる権利』保障」実現のために

子どもの「聴かれる権利保障」とは

「聴かれる」ということ

チャイルドラインは「子どもの聴かれる権利」を保障する活動です。悩みに限らず、日常の些細な出来事であっても、自分の話を否定されず、最後まで「聴かれる」ことは本当に心地よく、自分という存在を認めてもらえたように思えます。アドバイスや解決策を提示したくなる「おとなの気持ち」は一旦横に置いておいて、まずは子どもの話を評価せずにそのまま受けとめることが、結果として問題解決の近道となり、子どもの自立を促すことにもなります。

お互いの権利の尊重

自分に権利があるのと同様に相手にも権利があります。そして、自分の権利の行使が相手の権利を侵害してしまうことが往々にしてあります。学校において、これは子どもとおとなという関係だけでなく、子ども同士も同様です。自分の権利を守りながら、相手の権利も尊重する「お互いの権利の尊重」は、お互いにごう折り合いをつけるかということです。自分の権利を一方的に主張するのではなく、相手の主張にも耳を傾ける—そうできるためには、日頃から「自分の権利が尊重されている」と感じていること、自己肯定感を持っていることが必要です。

「聴かれる」ことにより期待される効果

SOSの早期発見・未然防止（予防）、適切な支援へのつなぎ

子どもに関わる社会的課題である虐待、ヤングケアラー、貧困、自傷、希死念慮、いじめ、不登校、不適切指導などを早期に発見し、必要な支援へつなげられることが期待できます。学校には、問題行動のある子どもや意見表明する力のある子どもだけでなく、自分の意見を表明できない子どもも多くいます。どんな子どもでも意見表明できて自己決定しやすくなるような「場」をつくることで、子どもに関する多様な問題抑止、早期発見につながっていきます。

現在一部の学校内にある「校内カフェ」「別室」などはそのような「場」の機能を持っている場合もありますが、教職員の「子どもの権利」への理解不足は否めず、学校教育の一部として管理されがちです。意見表明支援の場となるためには、教職員だけでなく関わるすべての人が「子どもの権利」を理解し、「権利保障の場」という認識を持つことが必要です。

子ども自身の主体的な自己形成、自己決定力の育成、主権者としての社会参画の学び

子どもやおとなが「子どもの権利」を学び、社会全体で「子どもの権利」に基づく「子ども観」を共有することで、子ども自身が自分の存在を認め、自尊感情を持ち、主体的に生きていくことができます。また、自分の権利が保障されているという実感が他者の権利尊重につながり、対等な人間関係の構築につながります。

「子ども観」の刷新

「子ども」という存在をどう捉えるか

チャイルドラインに寄せられる声からは、「おとなが思う最もよいこと」や子どもを対等と考えていない振る舞いが多くの子どもを悩ませ、苦しめているように感じられます。また、子ども自身にそれぞれが主体性を持った大切な存在であるという理解があり、尊重されているという実感があれば、子ども同士の関係性ももう少し柔らかくなるのではないかと感じるが多々あります。いじめや不登校、自死など、子どもに関わるさまざまな問題を考えるとき、私たちおとなが子どもという存在をどう捉えているのが重要です。子どもの権利条約では、子どもを「一人ひとりが権利の主体であり、自ら主体性をもって選択し決定していくおとなと対等な存在」と捉えています。今、私たちおとなには、「指導されるだけ、守られるだけの存在」から「自ら主体性をもって選択し決定していくおとなと対等な存在」へと「子ども観」の刷新が必要です。

子どもの生きやすい社会実現に向けて

子どもが自分らしくいきいきとした子ども期を過ごすことができるように、そして、自分で考え判断し、自分の行動に責任を持ち、他者の権利も大切に自立したおとなへと成長・発達していけるためには、学校だけでなく、地域のおとなや社会にも子どもの権利条約の「子ども観」が求められています。

子どもは社会をともにつくっていくパートナーです。子どもの生きやすい社会実現には、何よりもまず「子どもの意見を聴く」ことから始まるのではないのでしょうか。

「おとなにいいたいこと」

子どもの生きやすい社会を実現するために、「おとなに変わってほしいこと」、「変えたい社会の仕組み」などについて匿名で書き込むことができる目安箱のようなコーナーをホームページに設置しました。2023年4月から1年間で1,428件の書き込みがありました。子どもからおとなに「こうあってほしい」「これはやめてほしい」という意見が多く寄せられています。

単位：件

学年	性別		いいたくない	どちらでもない	無回答	合計
	女子	男子				
小学生	441	58	172	59	4	734
中学生	306	38	96	50	5	495
高校生年齢	69	21	29	9	2	130
無回答	0	0	0	0	69	69
計	816	117	297	117	80	1,428

一般的に女子からの発言が多いのですが、小学生でも性別を「いいたくない」という回答が多く、子どもたちのジェンダーに対する意識が敏感になっていると感じます。

子どもがおとなにいいたいこと (プライバシーに配慮して再構成しています)

傾向として小学生は短文が多く、年齢が上がるに従い具体的な解決策も提示されています。

小学生

- 女だから、男だからと言うのをやめてほしい
- 学校でおしえられていることをなんでおとなはやっていないんですか。(例：電車の中などで妊婦さんやご老人を見たときには席を譲るなど) それって、子供に「こうなってほしい」を押し付けているだけじゃないんですか。大人がやっていないので(やっている人ごめんなさい) 子供もやらないと思いますよ。
- 選挙に行って、どうか政治に正しく世論を反映させてほしい。このままじゃ私たちの生きる将来が不安で仕方ない。あと少子高齢社会をどうにかしてほしい。このままじゃきっと日本は先進国でいられなくなる。
- 子供のことを否定せずにのびのびと生きられる社会を作って欲しいです。

- 普通を押し付けしないで下さい・古臭い考えを捨ててほしい。いつか、いろんなひとがぼろっと人の心を救える言葉言っているそんな世界にしたい。あと、大人は仕事とかに取りつかれすぎ、現実じゃなくて夢もたまには見てほしい
- もっと、居場所をください。学校で苦しんでる人はたくさんいると思います。相談室にもっときやすい雰囲気にしてほしいです。年に何回か「個別面談」の日を作ったり、相談室前にポストを設置したりするのはどうでしょうか?どうか、学校に居場所をください。つらいです。
- 地震や自然災害が心配なのに「ダイジョウブ」と言って備えもしてない。いつ来るかわからないのに。ダイジョウブと励ますのはいいけど、備えも大事だと思う。

中学生

- 何でも大人が勝手に決めて、生徒に強要させること。部活の活動時間が準備・片付けしてたら1日30分程度しか出来なくなりました。もちろん先生方の負担が大きすぎるのは痛感しているし、極力先生方の負担を減らしてほしいとは思いますがあまりにも活動時間が短いと思います。とにかく活動時間を削るのではなく、学校生活の中での空き時間、な

- なくても困らない時間(朝読書や、HRの余った時間など)を削って、少しでも部活動に時間を回せるようにして欲しいです。せめて、決定の前にアンケートを取ったり少しいから生徒の意見をきいてほしいと思いました。
- 最近ジェンダーレスの取り組みがあるけど、人の決めつけというのはなかなか消えないもので、「女なんだから当然」と

か「男ならそうするのが当たり前」っていうその人の偏見みたいなのがよくあります。こんなの絶対おかしいと僕は思います。一人称も、「俺」というとみんな不思議そうな顔をするし、『女子なのに』すごいね!』って、褒められているはずなのに複雑な気持ちになります。人の気持ちなんて読めはしないので、自分の心の問題なのはわかっているけど、なんとなく、この社会性に生きづらさを感じてしまいます。

- 子供は大人の道具じゃない。
- 学校の掃除をロボットがやるようにして欲しい!
- 大人は自殺をしてほしくないがために『周りが悲しむから死なないで』って言うけど、じゃあお前ら大人に俺たち子供の気持ちが分かるのか?死なないでって言われて踏みとどまれるならまだ軽症だけど、死なないで踏みとどまれない重症の子供

たちが自殺している。この現実を改善しようとしてる大人に俺は『じゃあまず子供の気持ちを考えろよ』って言いたい。

- 居場所がほしい。中学生やったら学校と部活と家(と塾とかの習い事) ぐらいいし普段行く場所がなく学校と部活と家(と塾とかの習い事) が嫌やったら逃げる場所とか落ち着ける場所とか本音を言える場所がない。
- 学校に行けないのは悪くないと思いついてる人もいるけど、選択肢が少なすぎる。
- 相談されたら何かしらやってほしい。見て見ぬふりとかちょっと注意して終わらせたりするのはやめてほしい。親は特に、子供が最近元気ないとかそういうことがあったらちゃんと話聞いてほしい。気合いでいけとか言って簡単に終わらせたり圧力かけたりしないでほしい。

高校生年齢

- 高齢者が長生きし過ぎるので、高齢者の医療費を高齢者が負担するようにしてほしいと思う。あと、国会議員が多すぎだと思う。減らしたお金を財政に回せばいいのに、国会議員は仕事なくなるのが嫌なのかな? 子供が生まれたら、お金を渡すと言っているけど、渡しても子供が増えないのはわからないのかな?

- 高校生、1人1台端末が重い! 学校曰く、教科書をパソコンに入れて通学バックの軽量化、課題の提出がしやすくなったり、授業の幅が広がったりするから導入した、って言われたけど、実際教科書は全て紙で、普通の荷物+端末でさらに重くなった。大金を払ったのに、活用できていない気がします。私からの意見は ○端末を導入するなら、講習会などを開いて、活用方法を教員に教える。予算、スケジュール的に厳しいのなら、まだ導入しなくてもいいのでは? ○情報の先生をもっと増やして欲しい!

- 痴漢を減らしてほしい 性犯罪の罪を重くしてほしい それぐらいつらい

- 登録して意見を言ったり書いたりするのは苦手。なぜかという少ない個人情報でも言い方や書き方で個人を特定されて家族まで大変な思いをした事があるから。だから自分は匿名じゃないと意見も相談も出来ないでチャイルドラインに出会えて良かった思うてます。

- ここにどんなことが書いてあってもなにもしてくれないって思う

- チャイルドラインの人達に言いたいこと。自分は、ここが居場所で、つぶやきが始まった頃に、たまたま他の子供アンケートページから発見した。持病と中途半端な発達 / 知的 / 精神障害あって今は学校にも行ってないし同年代と会っ

たり話したりもない。母親は本当に良い人だけど忙しい。自分も毎日が家事手伝いや他の家族達の世話など生活が大変で、電話やチャットする時間もない。それでも、たまにここに来ると安心する。ありがとう、いつか話してみたいのを目指して何とか生きている。色々な事情がある子供でも幸せに暮らせるようにして欲しい。

- 児童相談所に一時保護されると学校に通えないことについて。一時保護中の児童生徒は多くの場合、学校に通うことはできません。保護所で学習の機会を設けているといつてもレベルの合わないプリント学習だったり、その他大勢の子どもたちと受けられる学習の質に大きな差があります。私は家で親からの暴力があり、児童相談所とも関わりました。私はこれ以上家にいるのはもう耐えられない! という思いで相談して、そして児童相談所の方も「今すぐでも一時保護できる」と言っていたのですが、学校には通えないと聞いてそこからは全力で拒否し続けました。受験まではまだ余裕がありましたが授業をしばらく受けられないなんてことになったら置いていかれることは確かで、勉強はそれまでかなり頑張っていたのでそうなるとその後の人生全部狂うという恐怖がありました。家庭に問題とかなく普通に生きている多くの子どもたちと同じように授業を受ける機会を奪わないでください。

解決策 全国の児童相談所で、一時保護所と在籍しているクラスを繋いで、リモート授業を受けられるようにしてほしいです。ここ数年で学校に一人一台タブレットが導入されたりしているので、人員を増やすとかよりも現実的だと思います。

子どもの「声」を受けとめる

子どもの「声」

友だちのこと

- 特別学級からクラスに帰ってくると友だちが話してくれなくて、無視される。だから学校行きたくない。
- 高校入学して3日過ぎた。新しい環境ですごく不安。仲の良かった子たちがバラバラになっちゃったからともだちできるかとか、うまくやれるかとか不安で眠れない。
- お弁当と一緒に食べてくれる子がいない。話をする子は入るけど、その子は他の子と食べる。
- 親友だと思っていた人に裏切られた。信じていたのに。もう消えたい。

勉強のこと、進路のこと

- 今のところなんとかがんばって学校の勉強についていっている。他の家族はみんな勉強ができるけど、私は苦手で…
- 高1からうつ病。大学に行きたいけど、親には働けと言われる
- 親に勉強をやらされている感じ。1日4時間以上やれと言われる。自分なりに、勉強はやっているつもりなのに…。まじで、本当に怒りの気持ちでいっぱい。高校も、親の勧めで進学校を受験させられ、合格はしたけど、今、とても疲れている。

学校で、学校のこと

- 明日学校行きたくない。火曜日には行けるけど、月曜日がいや。みんなLINEで月曜日は学校めんどくさいって言っている。火曜日からになったらいいのに。
- 私より辛い環境にいる人はきっとたくさんいるけど、それでも辛い。私のノートを投げられて、ボロボロにされる。学校自体は好きなのに、クラスメイトがどうしても嫌い。
- いじられキャラが辛い。毎回、何を言われても笑ってごまかして。その繰り返し。いじる側はイじられキャラの気持ちなんて考えたことないだろ？なんとなく学校に行って、なんとなく周りに合わせる。生きることが疲れた。なんで私だけがこんなに我慢しなきゃいけないの？

親のこと

- お父さんとお母さんが喧嘩していて、仲裁に入ったりしている。父は不倫していて、母は泣いてばかり。学校で相談したら、児童相談所に相談するって言われた。普通の家と違うから児相から連絡来たら怒られる。
- 親が私と兄に弟の世話を任せて夜どっかへ行く。帰ってきて寝ていなくなったり部屋が汚かったら怒鳴ってくる。おかしい。親って子供の世話をするんじゃないの？なんで私たちがしてるの？そのくせに怒鳴ってくる。勝手に私たちを産んだのに育てもしてくれない。そんなんだったら産まないでよ。産まれてこなきゃよかった。子供は親を選べない。もううんざり。死んだ方がましだ。

セクシャリティ

- 僕は女の子だけど、男の子がいいです。服とかも運動はできないけどジャージやパーカーとかしか着ません。フリフリとか嫌い。女の子らしくいることが嫌いです。
- 好きな人ができた。でも、その子も僕も女の子。その子に気持ちを伝えたら、気持ち悪いと言われた…

恋愛

- 好きな人と一緒に帰りたいんだけど、どうやって誘えばいいのかな。クラスは違うけど、4、5回くらいは2人で帰った。その時は彼が誘ってくれたんだ。めっちゃ嬉しかった。
- 私は学校から彼氏と一緒に帰っているのですが、最近、私の服をめくったり体を触ってきたりします。嫌だけど、嫌な思いをさせたくなくて言えません。。本当はすごく嫌なのに、どうしたらいいの。。

自分のこと

- ずっとリスクしている。2年くらい前から。一回辞めた時期はあったけどまた再発してまだ続いている。もう切らないと生きていけない。他人に当たってしまいそうなくらいの怒りも、自分が犯した失敗への怒りも、孤独だと感じる苦しさや虚しさ、悲しさも全部全部切ってしまうと落ち着くんだ。
- 自分の顔も、性格も、全部嫌い。一回死んで生まれ変わりたい
- 嘘をつくってそんなに悪いこと？自分の身を守りたいだけなのに。どうしたらいいかわかんないだけなのに

意見

- 16時からだと親が帰る時間と絶妙にかぶるので電話がしにくいのももう少し早め(13時からなど)にしてほしいです。
- 毎日辛くて電話してみようと思っても、スマホは持ってないし、このタブレットも本当は私は使っちゃいけないから電話が出来ません。今も親に隠れて文字を打っています。先生に相談したくてもみんな文化祭モードで話しくいのです。私みたいな子も電話できるようにしてほしいです。
- 相談したいことがあって、電話は使いたくないのに、チャットが今日(月曜日)開いていないから、誰にも話せない。毎日チャットで相談できるようにしてほしい。
- つぶやきのところに返信できるようにして下さると助かります。しかし、実現は難しいと思うので、「わかる!」などのボタンを追加する程度でも全然大丈夫です。なので、コメントできるようにして頂けると助かります。

感想

- 言葉にしていたら、感情的になって泣いてしまっても、待ってくれた。だから話しやすかった。今回ですべて解決したわけでは、ないけれどすごく楽になった。
- 抽象的な表現しかできなかった自分の気持ちに、すごく的確に気づいてくれました。とても嬉しく、安心できました。本当にありがとうございました。
- 親に秘密でやってみました。少し気持ちがスッキリしました。また使ってみたいです。
- 他の相談サービスって「人権」とか「いじめ」とかに限られてるから、ここみたいにどんなジャンルでも受け止めてくれるところは話しやすくてすごく良い。
- つぶやき、自分の気持ちを言語化してはくことができるので、すごくいいと思います。相談するのは勇気があるし、前に怖い対応をされたことがトラウマになってしまっているのですが、つぶやきなら、気軽にできて助かっています。

質問

- 話している途中で声が出なかつたりうまく喋れなくても大丈夫ですか…?
- 自分のなやみは性のことなんですけどいいですか?
- 私のスマホは、電話するとお金がかかってしまうのですが通話料が無料ということは、電話しても一切お金がかからないのですか?

※「電話」「オンラインチャット」「つぶやく」で受けとめた声をプライバシーに配慮して再構成しています。

受けとめた「声」のデータ

実施概要 2023年4月1日～2024年3月31日 厚生労働省 令和5年度自殺防止対策事業

電話 (統一番号フリーダイヤル)

電話番号：0120-99-7777 (日本全国共通 / 携帯電話、公衆電話も通話無料)

実施日時：毎日16時～21時(年末年始は休止)

※一部地域では時間延長して実施 2024年11月19日16時～11月25日21時(24時間連続実施)

ネットでんわ (スマホアプリによる通話)

実施日時：2023年8月22日～28日 以降毎週月曜日16時～21時(年末年始は休止)

オンラインチャット

チャイルドライン支援センターウェブサイト上に専用ページ設置 <https://childline.or.jp/chat>

実施日時：2023年4月1日～2024年1月31日 水曜日、木曜日、金曜日、土曜日16時～21時(年末年始は休止)

2024年2月1日～2024年3月31日 第1・第3月曜日、火曜日、水曜日、木曜日、金曜日、土曜日16時～21時

2023年8月22日～9月4日 毎日実施16時～21時

つばやく

チャイルドライン支援センターウェブサイト上に専用ページ設置 <https://childline.or.jp>

実施日時：24時間 365日書き込み可能

トラヒックデータ

〈集計データの概要・特徴〉

- ・集計日 2024年6月11日
- ・電話は NTTコミュニケーションズのトラヒック調査ツールより、オンラインチャットは AI.BiS のシステム上のツールより、取得し分析したものです。
- ・同じ人が複数回かけてきている場合があるので、「着信数・書き込み件数＝利用人数」ではありません。
- (注) データ集計は自動計算で、各データの小数点をまとめています。そのため、同じ項目のデータでも集計の仕方によって違いが生じている場合があります。違いがある場合は、「利用状況」のデータを利用してください。
- ・単位表記のない数値はすべて「件」。

利用状況

電話

発信数着信数ともに減少しました。減少の原因としてはおとなからの頻回妨害電話対策を強化したこと、子どもが電話を利用しにくい状況が考えられますが、更なる検証が必要です。

項目	2023年度	1日あたり平均 (開設359日)	2022年度比	2022年度
発信数	342,338	954	-68,382	410,720
着信数	165,872	462	-18,755	184,627
うち固定	21,148	59	-4,138	25,286
うち公衆	2,540	7	-957	3,497
うち携帯	142,184	396	-13,660	155,844
着信率(会話できた率)	48.5%		+3.5%	45.0%
かけた人数(人)	64,826	181	-7,495	72,321人
つながった率	66.2%		+2.8%	63.4%
平均通話時間	4分49秒		+2秒	4分47秒
10分以上の通話	25,012	70	-2,865	27,877
着信数比	15.1%		0.0%	15.1%
総通話時間(時間)	13,324	37	-1,393	14,717
総実施時間(時間)	35,067	98	-1,016	36,083
稼働率	38.0%		-2.8%	40.8%
時間着信数/回線	4.7		-0.4件	5.1

※「つながった率」とは同日中に電話をかけた人数のうち、何人着信できたかを表しています。 ※「10分以上の通話」は平均通話時間以上で、一定会話が深められる時間として設定しました。
 ※「総通話時間」着信した電話の通話時間の合計。 ※「稼働率」総実施時間のうち、通話していた時間の比率を表しています。 ※「時間着信数」1回線あたりの1時間に着信した件数を表しています。

オンラインチャット

2022年度に比べて、開設日、実施団体が増加し、総実施時間、総対応時間、書き込み件数も増加しているため、対応率は若干上がりました。(2023年度の2月から第1・第3月曜日と毎週火曜日の実施が始まりました。)

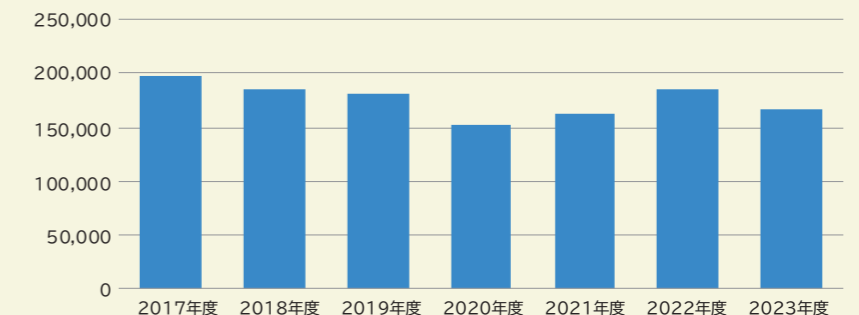
項目	2023年度	1日あたり平均 (開設224日)	2022年度比	2022年度
訪問件数	134,593	601	+1,146	133,447
書き込み件数	37,174	166	+4,847	32,327
対応件数	14,559	65	+2,742	11,817
うちスマホ・タブレット	9,034	40	+1,716	7,318
うちPC	5,523	25	+1,024	4,499
対応率(会話できた率)	39.2%		+2.6ポイント	36.6%
ユニーク訪問人数(のべ)	81,116	362	+993	80,123
書き込み人数(のべ)	36,878	165	+4,596	32,282
つながった率	45.5%		+9.5ポイント	36.0%
平均対応時間(1対応件あたり)	41分59秒		+10秒	41分49秒
40分以上のチャット	6,063	27	+813	5,250
対応件数比	41.6%		+0.4ポイント	41.2%
総対応時間(時間)	10,187	45	+1,951	8,236
総実施時間(時間)	9,347	42	+2,245	7,102
稼働率	109.0%		-7.0ポイント	116.0%
時間対応数/回線	1.6		-0.1件	1.7

※「訪問件数」チャットシステムに入室した延べ人数で、電話における発信数にあたります。 ※「書き込み件数」対応した・しないに関わらず、子どもが何らかの書き込みをした数(チャット特有の数値)。
 ※「対応件数」受け手が何らかの書き込みをした数(ガイダンスは除く)。 ※「対応率」書き込み件数に対して対応した比率。 ※「ユニーク訪問人数」実際にチャットシステムに訪問した人数(IPアドレスの重複を除いていますが、月が替わると1カウントとして計上されます) ※「40分以上のチャット」平均対応時間以上で、ある程度会話が深められると考えた時間。
 ※稼働率＝「のべ実施時間」あたりの「総対応時間」の比率。(稼働率が100%超については「のべ実施時間」は、実施予定表(オンラインチャットスプレッドシート)から積算されており、そこに記載された実施時間・パソコン台数等が実際の実施と異なっていること、対応できた人の対話時間以外の時間も含まれていることが原因)

アクセス件数年度別推移

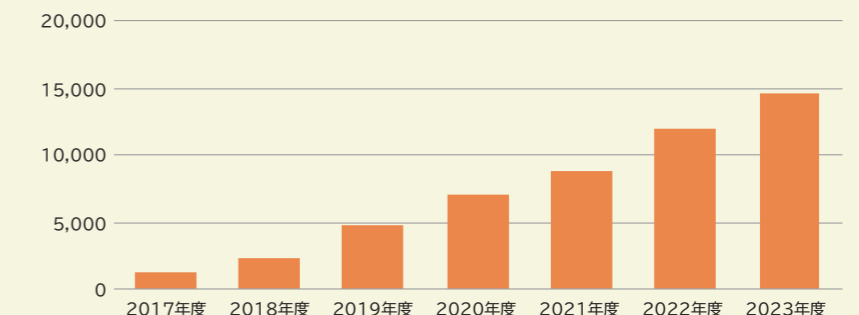
電話

年度	電話着信件数
2017年度	198,434件
2018年度	186,363件
2019年度	181,196件
2020年度	151,812件
2021年度	162,932件
2022年度	184,627件
2023年度	165,872件



オンラインチャット

年度	対応件数
2017年度	1,234件
2018年度	2,254件
2019年度	4,630件
2020年度	6,992件
2021年度	8,712件
2022年度	11,817件
2023年度	14,559件



データベース

〈集計データの概要・特徴〉

- ・集計日 2024年6月11日
- ・子どもの話を聴く「受け手(子どもからの電話・オンラインチャットを直接受ける人)」が感じた子どもの状況を、子どもが特定できないようデータベースに集積し分析したものです。
- ・匿名性と尊重するため、同じ人が複数回かけてきている場合があり、同じ内容の件数が増えていることもあります。(「件数=人数」ではありません。)
- ・集計にあたっての分母は、「着信の内訳」を除き、「会話成立(子ども)」数です。(ただし、合計値には「未入力」も含まれるため、一致しない場合があります。)
- ・単位表記のない数値は全て「件」。

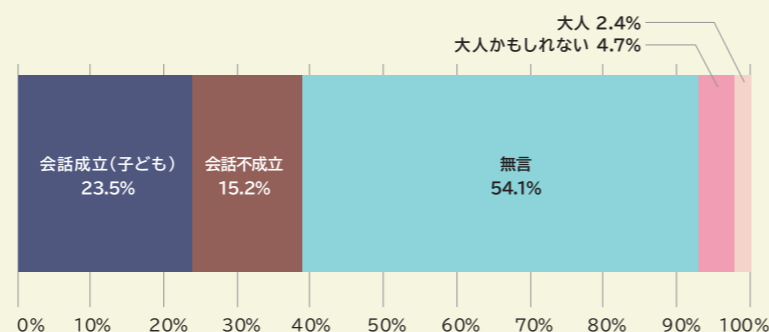
着信の内訳

電話での子どもとの会話成立は25%でした。

無言は50%を超えています。無言には、つながった途端に切れるものと長く無言のまま切れるものがあります。無言や会話不成立には、お試しかけてみた場合やつながったものの話し出せなかった場合もあると考えています。オンラインチャットでは、子どもとの会話成立が80%を超えています。

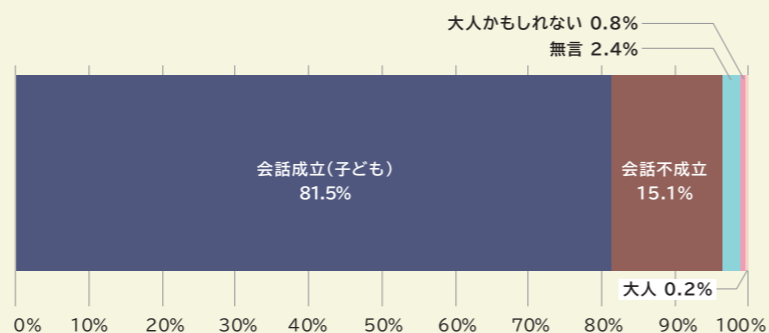
電話

	着信数	比率
会話成立(子ども)	38,415	23.5%
会話不成立	24,880	15.2%
無言	88,401	54.1%
大人かもしれない	7,719	4.7%
大人	3,902	2.4%
合計	163,317	100.0%



オンラインチャット

	着信数	比率
会話成立(子ども)	9,648	81.5%
会話不成立	1,785	15.1%
無言	285	2.4%
大人かもしれない	98	0.8%
大人	29	0.2%
合計	11,845	100.0%



※「会話不成立」はコミュニケーションが成立しないもの、性的な目的でかけてきたものなどを分類しています。
 ※「会話成立(大人かもしれない)」は、内容・言葉使いなどから受け手が「大人かもしれない」と感じたものです。
 ※未入力のデータがあるため、トラフィックデータとは一致しません。

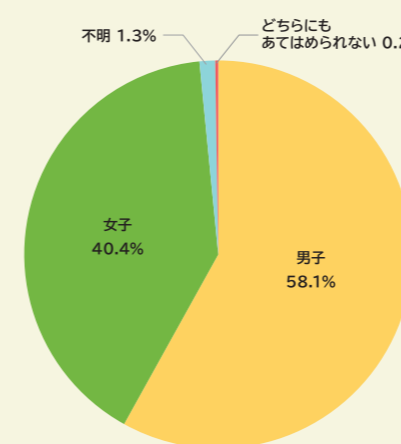
「会話成立(子ども)」について分析

(電話: 38,415件・オンラインチャット: 9,648件)

性別

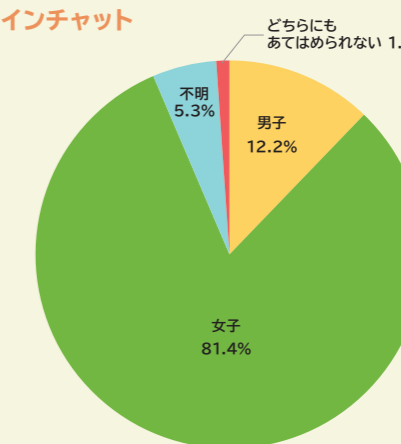
電話では男子の割合が半数を超え、オンラインチャットでは女子の割合が圧倒的に大きくなっています。

電話



男子	女子	不明	どちらにもあてはめられない	合計
22,306	15,513	503	93	38,415
58.1%	40.4%	1.3%	0.2%	100.0%

オンラインチャット



男子	女子	不明	どちらにもあてはめられない	合計
1,177	7,851	515	105	9,648
12.2%	81.4%	5.3%	1.1%	100.0%

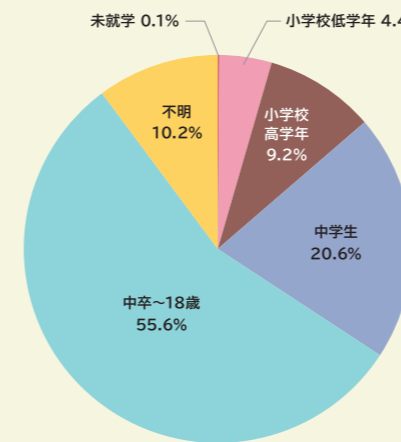
※「どちらにもあてはめられない」は2023年度から新たに項目を追加しました。子どもの様子や話の内容から、男女以外の性別が推察される場合に選択しています。

年齢別

電話では、中卒~18歳の割合が半数を超え、年齢が小さくなるにつれて低くなっています。

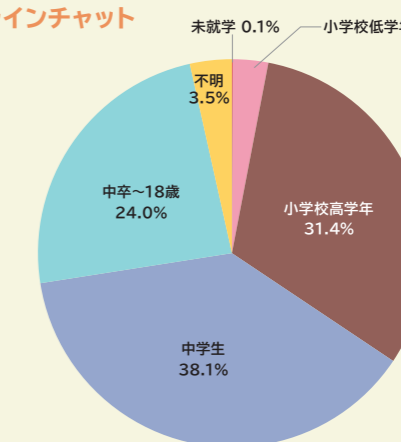
オンラインチャットでは、中学生、小学校高学年、中卒~18歳の順に割合が高くなっています。

電話



未就学	小学校低学年	小学校高学年	中学生	中卒~18歳	不明	合計
49	1,676	3,526	7,898	21,357	3,909	38,415
0.1%	4.4%	9.2%	20.6%	55.6%	10.2%	100.0%

オンラインチャット



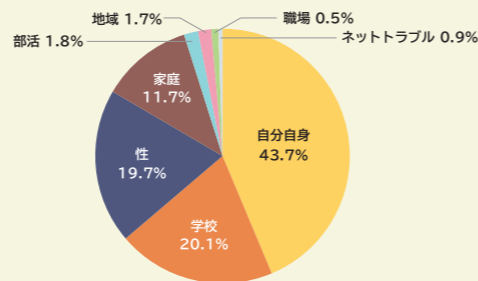
未就学	小学校低学年	小学校高学年	中学生	中卒~18歳	不明	合計
7	284	3,026	3,680	2,314	337	9,648
0.1%	2.9%	31.4%	38.1%	24.0%	3.5%	100.0%

主訴

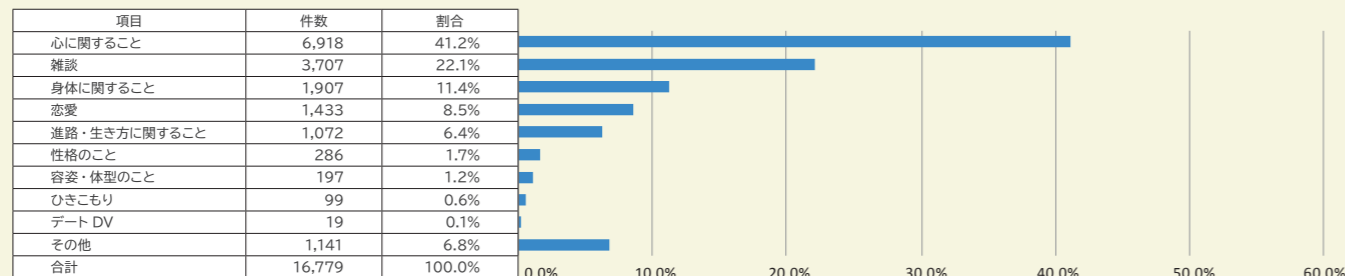
電話

「自分自身」「性」の割合が若干減少し、「学校」が増えています。
 「自分自身」の内訳では、「心に関すること」「雑談」が多くなっています。雑談については、たわいない話をしたい場合や試しにかけてみた場合、本当に話したい内容があったが話せなかった場合などが考えられます。
 「学校」では「人間関係」が半数を超え、「いじめ」と続きます。
 「性」では、「自慰」「性行動」に関することが多く、興味・関心も含めて、性教育の必要性を感じます。
 「家庭」でも「人間関係」が最も多く、半数近くを占めています。親と関係性や意見の違いなどの声が多く寄せられます。また、「虐待」は約32%になっています。

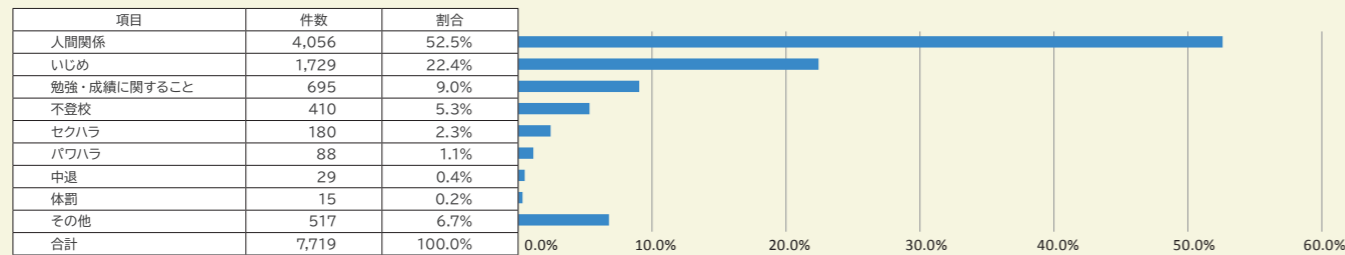
大項目	2023年度		2022年度	
	件数	比率	件数	比率
自分自身	16,779	43.7%	20,486	47.7%
学校	7,719	20.1%	7,687	17.9%
性	7,554	19.7%	8,535	19.9%
家庭	4,484	11.7%	4,309	10.0%
部活	690	1.8%	686	1.6%
地域	645	1.7%	629	1.5%
ネットトラブル	339	0.9%	430	1.0%
職場	205	0.5%	201	0.5%
合計	38,415	100.0%	42,963	100.0%



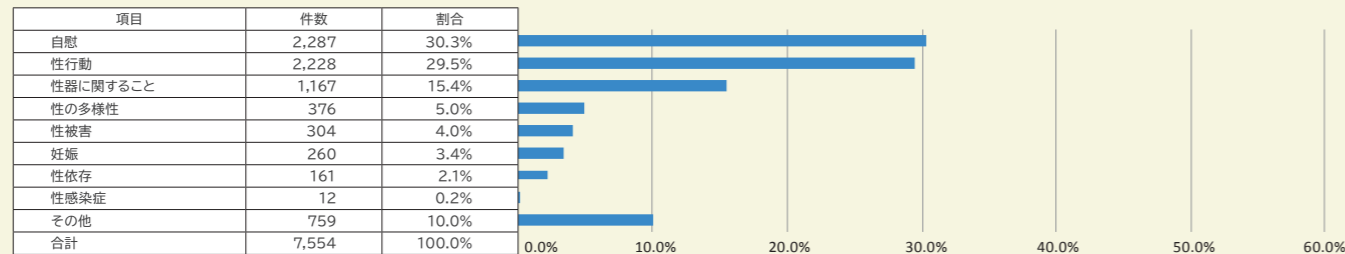
自分自身



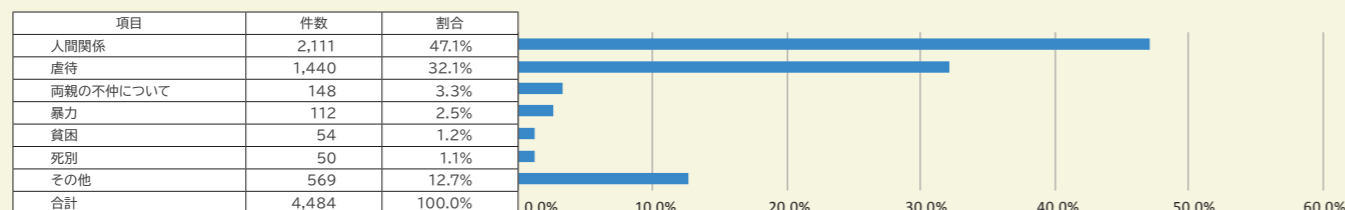
学校



性



家庭

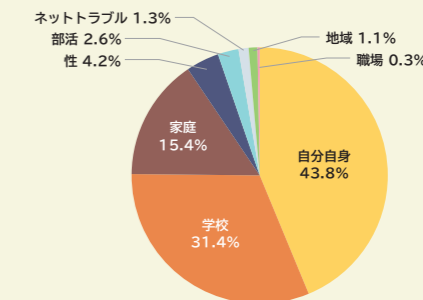


主訴

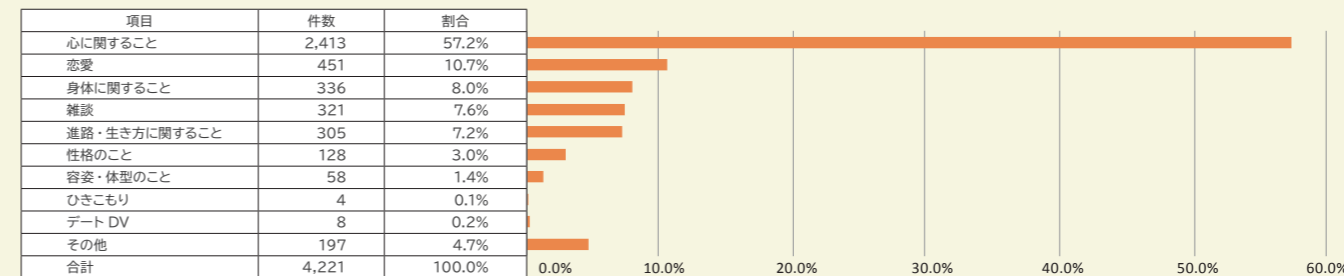
オンラインチャット

「自分自身」の内訳では、「心に関すること」が60%近くを占めています。
 「学校」では、「人間関係」が60%を超え、次いで「いじめ」となっています。
 「家庭」でも、「人間関係」が最も多く、半数を超えています。また、「虐待」も30%近くになっています。
 「性」に関する件数が少ないのですが、内訳では「性の多様性」が多くを占めています。

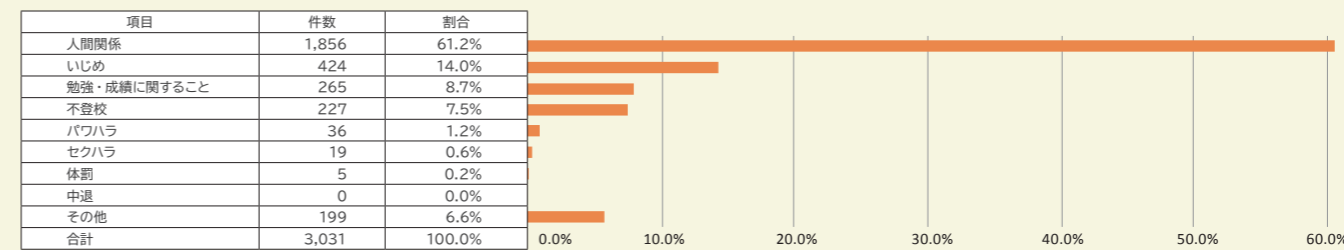
大項目	2023年度		2022年度	
	件数	比率	件数	比率
自分自身	4,221	43.8%	3,460	44.6%
学校	3,031	31.4%	2,406	31.0%
家庭	1,483	15.4%	1,175	15.1%
性	403	4.2%	290	3.7%
部活	253	2.6%	207	2.7%
ネットトラブル	124	1.3%	109	1.4%
地域	106	1.1%	88	1.1%
職場	27	0.3%	22	0.3%
合計	9,648	100.0%	7,757	100.0%



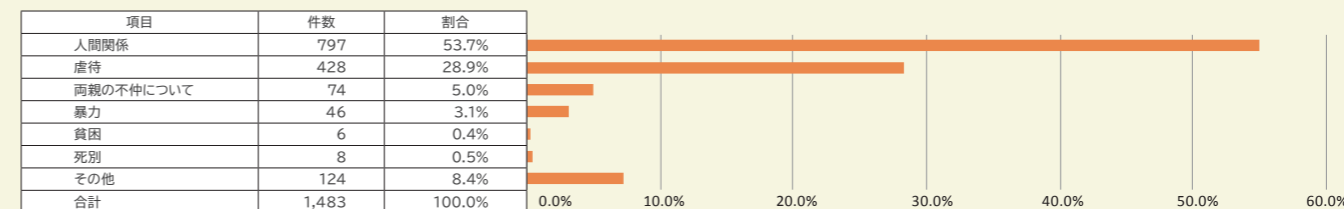
自分自身



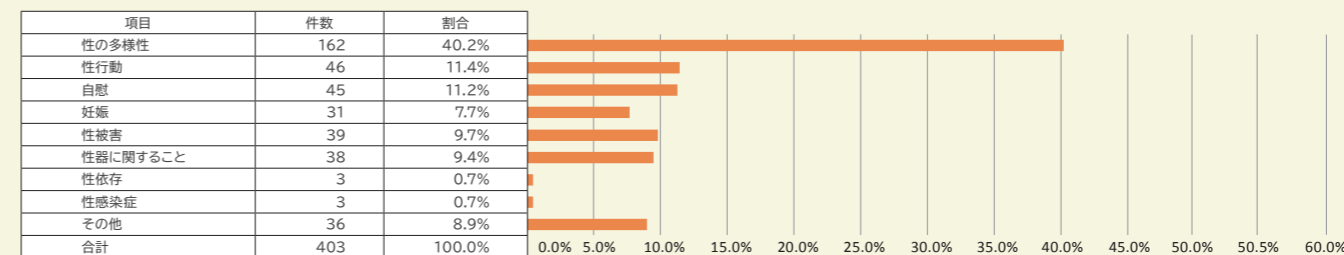
学校



家庭



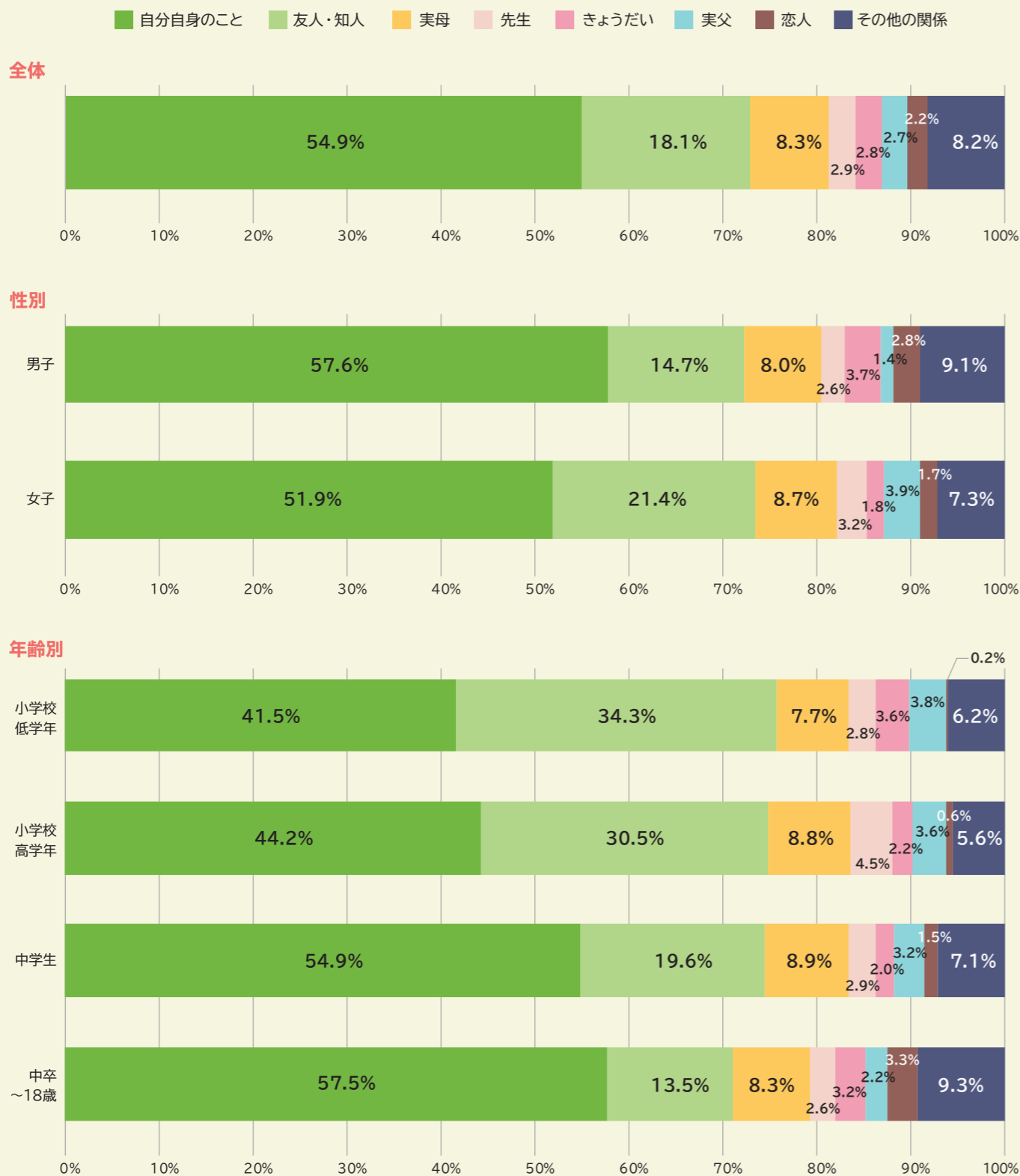
性



関係性

電話・オンラインチャット

子どもの話した内容が誰のことなのか、また誰との関係で起こっていることなのかをまとめました。全体に「自分自身のこと」の割合が高くなっています。女子は男子と比べて「友人・知人」が多くなっています。年齢別では、年齢が上がるにつれて「自分自身のこと」が増え、「友人・知人」が減っています。
*電話とオンラインチャットともに同様の傾向のため、合わせたデータとなっています。

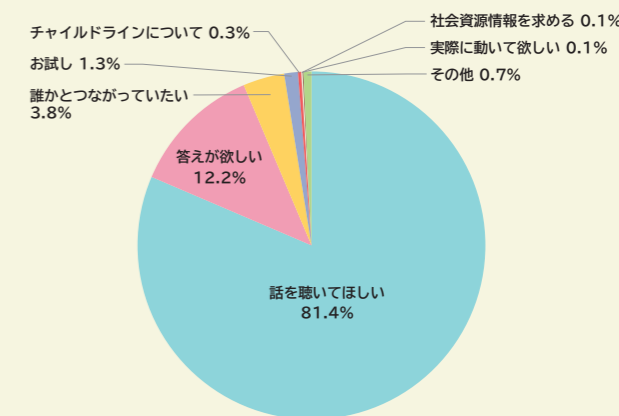


動機

電話・オンラインチャット

受け手が感じた子どもが繋がった動機は「話を聞いてほしい」が約81%です。「話を聞いてほしい」「誰かとつながりたい」を合わせた約85%以上の子どもが「話し相手」を求めていると考えられます。
*電話とオンラインチャットともに同様の傾向のため、合わせたデータとなっています。

動機	件数	比率
話を聞いてほしい	39,141	81.4%
答えが欲しい	5,863	12.2%
誰かとつながりたい	1,849	3.8%
お試し	614	1.3%
チャイルドラインについて	138	0.3%
社会資源情報を求める	59	0.1%
実際に動いて欲しい	42	0.1%
その他	357	0.7%
合計	48,063	100.0%



気持ち

電話・オンラインチャット

男子は「困惑・困っている」、女子は「つらい・苦しい」の割合が最も高くなっていますが、男女どちらにもあてはめられない子どもの約30%が「つらい・苦しい」気持ちでつながっています。また、年齢別では、小学生は「イヤだ」が最も多く、中学生は「つらい・苦しい」、中卒～18歳は「困惑・困っている」となっています。
*電話とオンラインチャットともに同様の傾向のため、合わせたデータとなっています。

性別 / 気持ち	全体 n=48,063	男 n=23,483	女 n=23,364	不明 n=1,018	どちらにもあてはめられない n=198	未就学 n=56	小学校低学年 n=1,960	小学校高学年 n=6,552	中学生 n=11,578	中卒～18歳 n=23,671	不明 n=4,246
困惑・困っている	14.3%	18.2%	10.5%	11.4%	9.1%	10.7%	17.0%	12.7%	13.8%	14.9%	13.5%
不安	14.2%	14.7%	13.8%	12.1%	9.1%	8.9%	8.9%	12.4%	16.7%	14.6%	10.5%
つらい・苦しい	13.4%	7.4%	19.1%	16.5%	29.3%	3.6%	4.7%	13.9%	17.2%	12.9%	9.0%
イヤだ	10.2%	8.4%	11.9%	10.8%	13.1%	16.1%	23.7%	17.0%	11.1%	7.3%	6.8%
葛藤・迷い・戸惑い	9.2%	11.7%	6.8%	6.4%	12.1%	5.4%	2.9%	5.9%	7.9%	11.7%	6.9%
怒り・いらだち	4.0%	4.1%	3.9%	2.6%	0.0%	0.0%	2.0%	3.8%	2.6%	4.6%	5.3%
孤独・寂しさ	3.5%	3.5%	3.6%	3.0%	2.0%	5.4%	3.7%	3.6%	2.9%	3.7%	4.0%
憂鬱	3.0%	2.5%	3.5%	2.8%	1.5%	1.8%	1.5%	3.0%	3.0%	3.0%	3.0%
うれしい・たのしい	2.7%	3.1%	2.3%	3.1%	0.5%	14.3%	9.8%	3.3%	1.9%	2.3%	2.5%
恐怖・怖い	2.7%	1.6%	3.7%	3.0%	4.5%	5.4%	4.4%	4.0%	3.2%	2.0%	2.1%
自分に自信がない	2.2%	1.7%	2.7%	2.6%	1.0%	0.0%	1.2%	1.9%	2.1%	2.6%	1.3%
悲しい	2.2%	1.0%	3.4%	2.2%	1.0%	7.1%	5.1%	4.5%	2.1%	1.4%	1.6%
疲れ	1.4%	0.8%	2.0%	1.9%	1.5%	0.0%	0.5%	1.2%	1.6%	1.4%	1.9%
楽しみ・期待	1.3%	1.6%	1.0%	0.9%	0.0%	1.8%	2.1%	1.4%	1.1%	1.4%	1.2%
人目が気になる	1.2%	1.5%	1.1%	0.7%	0.0%	0.0%	0.4%	0.8%	1.5%	1.3%	1.1%
くやしい	1.1%	1.0%	1.3%	1.1%	2.0%	1.8%	1.2%	1.3%	1.1%	1.1%	1.2%
あきらめ	0.9%	0.6%	1.1%	0.8%	1.5%	0.0%	0.3%	0.7%	0.9%	1.0%	0.6%
満足・充実感	0.6%	0.9%	0.4%	0.6%	0.0%	1.8%	1.0%	0.4%	0.4%	0.8%	0.5%
傷つきたくない	0.5%	0.4%	0.7%	0.7%	0.5%	0.0%	0.3%	0.6%	0.5%	0.6%	0.5%
幸せ	0.3%	0.5%	0.2%	0.1%	2.0%	0.0%	0.3%	0.2%	0.3%	0.4%	0.3%
傷つけたくない	0.3%	0.3%	0.2%	0.1%	0.5%	0.0%	0.2%	0.3%	0.2%	0.3%	0.0%
不明	6.8%	9.6%	3.7%	12.4%	5.1%	10.7%	5.4%	4.2%	4.3%	6.4%	19.7%
その他	4.0%	5.0%	3.1%	4.4%	3.5%	5.4%	3.2%	2.9%	3.7%	4.2%	6.5%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

子どもをとりまく社会課題項目

社会課題としてよく取り上げられる項目をまとめました。ほかのデータとは集計方法が異なります。

電話・オンラインチャット

主訴	電話	電話 前年度比	オンライン チャット	オンライン チャット 前年度比	合計	合計 前年度比
いじめ	1,837	163	448	86	2,285	249
加害	42	1	18	7	60	8
傍観	74	-17	36	14	110	-3
被害	1,721	179	394	65	2,115	244
虐待	1,439	150	428	100	1,867	250
身体的	230	-23	137	31	367	8
心理的	414	80	179	37	593	117
性的	608	46	25	-1	633	45
ネグレクト	119	54	26	16	145	70
教育虐待	68	-7	61	17	129	10
犯罪・暴力	88	0	8	-1	96	-1
家庭内暴力	112	-19	46	-2	158	-21
パワハラ	130	25	50	20	180	45
セクハラ	232	47	20	-6	252	41
性被害	304	-12	39	28	343	16
デートDV	19	-14	8	4	27	-10
加害	4	-2	1	1	5	-1
被害	15	-12	7	3	22	-9
体罰	20	-7	7	2	27	-5
不登校	408	-91	227	38	635	-53
ひきこもり	99	7	4	-1	103	6
希死(自殺)念慮	735	136	382	162	1,117	298
背景に希死(自殺)念慮がある(※)	362	87	265	43	627	130
自傷行為	150	-63	134	-14	284	-77
薬物乱用・依存	20	-21	5	1	25	-20
ネットトラブル	228	-34	77	9	305	-25
拡散	51	-28	20	3	71	-25
出会い系	28	-1	3	-2	31	-3
料金	22	-13	6	2	28	-11
依存	28	-6	9	2	37	-4
その他	99	14	39	4	138	18
総数	5,821	267	1,883	426	7,704	693

※背景に希死(自殺)念慮がある:「主訴・希死(自殺)念慮」以外の、別な主訴にも、背景に「死にたい気持ち」を抱えていると思われるケースがあるので、その集計を行っています。

ネットであそぶ

2023年8月より「ネットであそぶ」の毎週月曜日常設化をスタートしました。フリーダイヤルにつながるこのできない子どもを視野に入れ、インターネット回線でつながれるようにアプリ開発を行いました。

2023年8月から翌年3月までのアクセスデータの概要をご紹介します。

トラフィックデータ ※ネットであそぶのシステム上のツールよりデータを取得し分析したものです。

利用状況

単位:特記以外は「件数」

項目	2023年度	1日あたり(開設37日)平均	項目	2023年度	1日あたり(開設37日)平均
発信数	1,390	38	平均通話時間	2分35秒	
うちiOS	283	8	10分以上の通話	50	1
うちandroid	1,107	30	着信数比	4.1%	
着信数	1,218	33	総通話時間(時間)	35	1
着信率(会話できた率)	87.6%		総実施時間(時間)	503	14
かけた人数(人)	198	5	稼働率	7.0%	
つながった率	87.9%		時間着信数/回線	2.4	

※「つながった率」とは同日中に電話をかけた人数のうち何人着信できたかを表しています。

データベース

着信の内訳		会話成立 (子ども)	会話不成立	無言	会話成立 (大人かもしれない)	大人	合計
	着信数	105	231	516	81	16	949
比率	11.1%	24.3%	54.4%	8.5%	1.7%	100.0%	

性別		男子	女子	不明	どちらにもあては められない	合計
	件数	78	27	0	0	105
割合	74.3%	25.7%	0.0%	0.0%	100.0%	

年齢別		未就学	小学校低学年	小学校高学年	中学生	中卒~18歳	不明	合計
	件数	0	1	7	31	56	10	105
割合	0.0%	1.0%	6.7%	29.5%	53.3%	9.5%	100.0%	

主訴		自分自身	性	学校	家庭	部活	地域	ネットトラブル	職場	合計
	件数	50	29	16	8	0	2	0	0	105
比率	47.6%	27.6%	15.2%	7.6%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	100.0%	

関係性		自分自身のこと	友人・知人	実母	恋人	その他の関係	合計
	件数	79	13	5	3	5	105
比率	75.2%	12.4%	4.8%	2.9%	4.8%	100.0%	

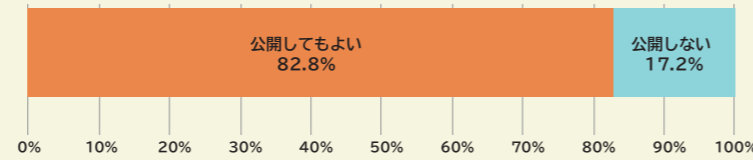
動機		話を聞いてほしい	答えが欲しい	誰かと つながっていたい	お試し	その他	合計
	件数	61	10	18	13	3	105
比率	58.1%	9.5%	17.1%	12.4%	2.9%	100.0%	

気持ち		困惑・困っている	不明	孤独・寂しさ	葛藤・迷い・戸惑い	不安	つらい・苦しい	憂鬱	楽しみ・期待	その他項目	合計
	件数	17	16	12	10	9	9	6	4	22	105
比率	16.2%	15.2%	11.4%	9.5%	8.6%	8.6%	5.7%	3.8%	21.0%	100.0%	

つばやく

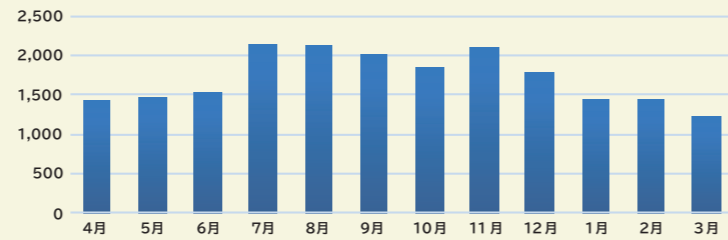
24時間いつでも匿名で気持ちを書き込むことができます。
「公開してもよい」を選んだ書き込みの中から、毎月50件程度をホームページ上で公開しています。
モヤモヤした気持ちを文字として言語化することで考えが整理され、少し気持ちが楽になると考えています。

つばやく内容	書き込み数	比率
公開してもよい	17,056	82.8%
公開しない	3,533	17.2%
合計	20,589	100.0%



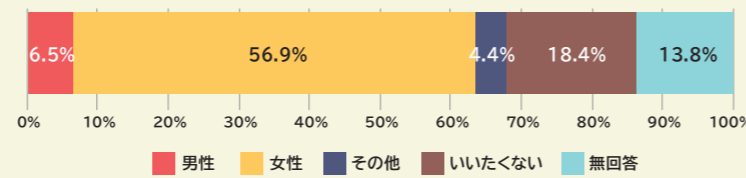
月別件数

6月から12月にかけて、書き込みが1,500件を超えています。最も多いのは7月の2,144件、8月の2,129件、11月の2,091件と続きます。



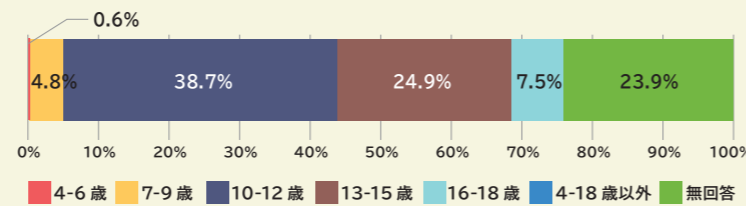
性別

子どもが選択した性です。
女性が半数を超えており、また、「いいたくない」も18%となっています。



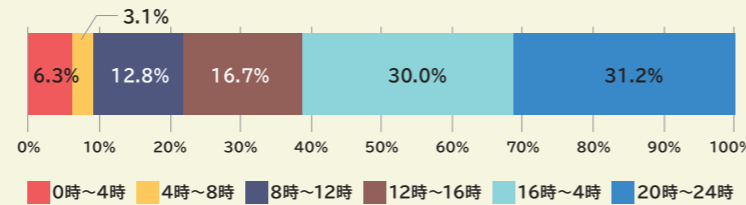
年齢別

子どもが選択した年齢です。
小学校高学年年齢が最も多く、次いで中学生年齢となっています。



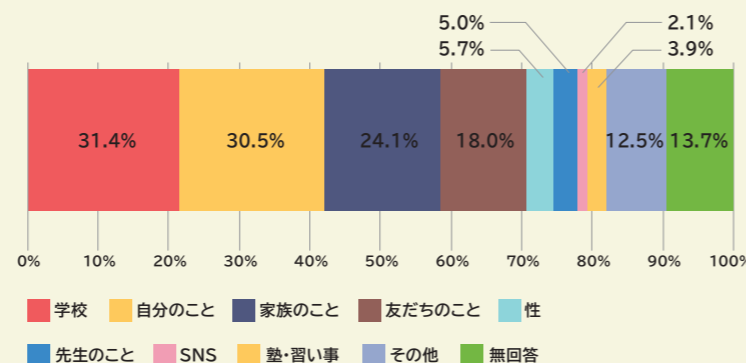
時間帯別

20時～24時の深夜帯が最も高くなっています。通学・在学時間中にも30%近くの書き込みがあります。



テーマ別

「学校のこと」「自分のこと」「家族のこと」の割合が高く、「友だちのこと」が続いています。一方、選ばれたテーマとつばやかれた内容が一致していなかったり、選んだテーマから違うテーマの話になっていたりすることもあり、複数の課題を抱えている子どもが多く見受けられます。また、つばやいているうちに、気持ちが整理されて本当に言いたかったことが見えてくることもあるのかもしれません。



集計データから、子どもたちの状況を読み解く

2021年度より四半期毎にアクセス内容とその分析を発信してきましたが、2023年度はそれに加えて、4つのテーマについて2016年度以降のデータを集計し、考察を行ないました。詳細はホームページに掲載しています。

第1四半期
いじめ



長年にわたって、子どもの大きな悩みの一つです。チャイルドラインにおいても、社会課題項目の常に最上位にいじめの声が届いています。チャイルドラインのデータにおいては、「いじめ」に関する悩みは、平均して「5%程度」あることがわかりました。年代によってやや減少傾向に見えますが、コロナ禍での環境の変化による変動も大きく、通常に戻った2023年度以降の傾向を注意深く見ていく必要があります。

第2四半期
虐待／ヤングケアラー



この7年間で「虐待」は急激な増減はないこと、月別で見ても、4月8月の学校の休み期間にかかる月にやや増加しているものの、一年通じて割合は大きく変化していないことなどがわかりました。「虐待の内容」を見てみると、全体として多いのは「性的・心理的・身体的」の項目ですが、「身体的」が低学年で、「性的」が上の学年で多い傾向となりました。一方で「心理的」はどの学年も一定割合いることがわかりました。

第3四半期
希死念慮



近年「子ども・若者の自殺者」が増加傾向です。チャイルドラインにつながる子どもたちが訴える「希死念慮」も、この7年間に於いて徐々に割合が高くなってきています。特に、2023年度は1.8%と、過去よりも高い割合となったことに注目したいところです。この割合の傾向は、月別でも同様で、直近1年の希死念慮割合は、すべての月において過去7年間よりも上回っています。中でも8・12月が高い傾向となっています。

第4四半期
性の多様性



近年、「多様な性」に関する法律制定や社会の議論が高まっていますが、チャイルドラインには性自認が明確な状態の子どもからだけでなく、「あいまいで葛藤や不安を抱えた状態の子どもたち」からも多くアクセスがあります。年齢は、「中卒～18歳」の割合の割合が高くなっていますが、これは自分の性について誰かに相談することのできる年齢が「中卒～18歳」くらいということなのかもしれません。

※詳細データファイルは、それぞれ集計、公表時期が異なり、集計数は、公表時点（発行日付）のものです。

子どもへの広報

ひとりでも多くの子どもにチャイルドラインの存在を知ってもらい、必要な時につながれるようさまざまな方法で広報しています。

カード・ポスター

チャイルドラインの情報を掲載した名刺サイズのカードを全国の小中高等学校、特別支援学校などへ約 1,010 万枚配布しました。配布にあたっては各都道府県・市町村教育委員会、校長会、私学協会また、配布作業にあたっては企業・個人のボランティアにご協力いただきました。

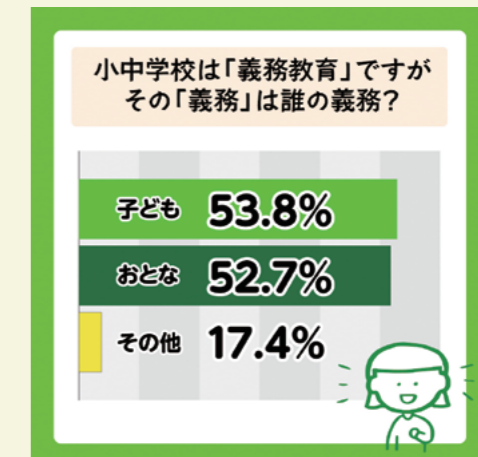
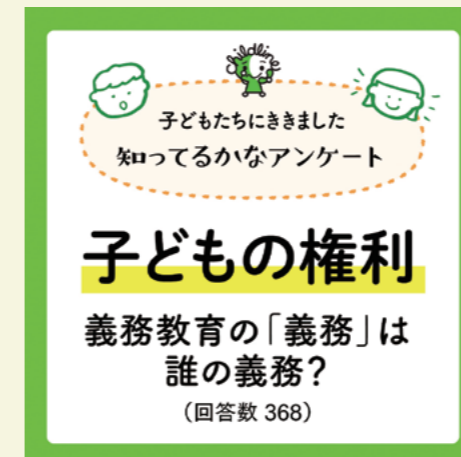
また全国 5,300 の小児科医院、2,688 か所の児童館に広報ポスターを配布しました。

(ご協力：公益社団法人日本小児科医会、一般社団法人児童健全育成推進財団)



SNS で発信 (Instagram、TikTok、YouTube など)

「子どもの権利」について伝えたり、チャイルドラインを知ってもらうツールとして SNS も活用しています。フォロワーを増やすための工夫、検討をしていく必要があります。



チャリティステッカー

Rockon Social Club のグッズステッカー



チャイルドライン全国キャンペーン

チャイルドライン夏の全国キャンペーン 「聴かせてほしい あなたの声」

「こども家庭庁」が始動し、同時に「こども基本法」が施行されました。どちらもチャイルドラインが大切にしてきた「子どもの権利条約」の理念が活かされています。昨年度に引き続き「子どもの権利条約 12 条」「話す権利」「聴かれる権利」を子どもやおとなに伝えるためのキャンペーンを展開しました。時期は子どものつらい気持ちのピークといわれる夏休み終了前後とし、受信体制を強化することで子どもの自殺防止に貢献する取り組みとしました。また子どもに向けてキャンペーンポスターを制作し、HP上や SNS を通じメッセージを発信しました。

2023年8月22日(火)～9月4日(月) 16時～21時
フリーダイヤル：回線数を増やすなど毎日の実施体制強化
ネットでんわ：8月22日(火)～28日(月) 毎日実施
オンラインチャット：期間中毎日実施

期間中に届いた子どもの声 (プライバシーに配慮し、再編成しています)

- 9月に進路を決めないといけないんだけど、親と意見が違ってどうしたらいいか悩んでいる。お金出してもらうから親の言うとおりにしないといけないのかな。
- 1学期に不登校になっていて、2学期からは行こうと思ったけどやっぱり不安。
- 思い切って児童相談所に相談したが、「親の同意がないと保護できない」と言われた。回りの大人が信用できない。早く親から離れたい。もうどうなってもいい! 援助交際もしている。
- 夜になると怖い、眠れない、親には話す気にならない。
- 夏休みに何年かぶりにおばあちゃんのところに行って、一緒に散歩した。すごく喜んで、おばあちゃん孝行できたみたいでうれしかった。
- 友だちが信じられない 夏休みが明けたら学校で会うため、また考えてしまう。
- 学校に行きたくない。希望校に入れず、楽しくない。



チャイルドラインからのメッセージ

聴かせてほしい あなたの声
あなたの気持ちを大切にしたいおとながここにいる
あなたは、ひとりじゃない

言いたくてものみ込んでしまった気持ちはありませんか?

子どもの持っている権利の中に、自分の気持ちや意見を「話す権利」と「聴かれる権利」があります。「権利」という言葉はむずかしいけれど、どんな人も持っている、あたりまえにしていることが権利です。だから、話すことをがまんしないでいい。もし、周りに話せそうな人が見つからなかったら…チャイルドラインはどんな気持ちも聴かせてほしいと思って待っています。あなたが「話したい」と思った大切な気持ち、チャイルドラインに聴かせてください。

24 時間キャンペーン (フリーダイヤル)

中国四国エリアのチャイルドライン実施団体からの呼びかけで、世界子どもの日前後の1週間、全国統一フリーダイヤルを24時間受け付けるキャンペーンを実施しました。2023年11月19日(日) 16時～25日(土) 21時

公開講演会

子どもの SOS に気づいていますか? ～すべての子どもの聴かれる権利が保障される社会に～

チャイルドライン支援センター主催で、子ども支援に関わるおとなと全国のチャイルドライン関係者を対象に公開講演会を実施しました。基調講演、パネルディスカッションを通じ、「おとなが『子どもの権利』を理解している現場では、子どもが主体的に行動できるようになり、その結果、問題解決につながっていく」ということを学びました。子どもの生きづらさのひとつに、「子どもの権利」が尊重されていないことがあります。「子どもの権利」の社会での認知、理解により子どもの主体性が育まれ、社会で生きていくためのレジリエンスも増していくと考えられます。気持ちや意見を聴いてもらうことで、人に受け入れられたと感じることができ、「生きていていい」という自己肯定感を持てるようになることから、ひとりでも多くのおとなが子どもの声に耳を傾けることで子どもの生きやすい社会になることをあらためて学ぶ機会となりました。



2023年12月9日(土)・10日(日)
国立オリンピック記念青少年総合センター

基調講演

講師：甲斐田万智子さん

認定 NPO 法人国際子ども権利センター (シーライツ) 代表理事
「子どもの SOS に耳を傾け、反映する
～子どもの権利を尊重する社会の実現に向けて」

パネルディスカッション

パネリスト 3 人がそれぞれのテーマで 15 分ずつの発表後、甲斐田万智子さんをファシリテーターにパネルディスカッションをしました。



ファシリテーター
甲斐田万智子さん



パネリスト
今村久美さん
認定 NPO 法人カタリバ代表理事
『すべての子どもの
聴かれる権利が保障される社会に』



パネリスト
内田良さん
名古屋大学 教授 (教育社会学)
『だれが変わるべきなのか
～校則問題から考える～』



パネリスト
竹村浩
認定 NPO 法人チャイルドライン支援センター 代表理事 (当時)
『チャイルドライン 25 年～あらためてその社会的役割を考える』

チャイルドライン支援議員連盟総会・勉強会

チャイルドライン支援議員連盟総会 2024年2月29日(木) @参議院議員会館

4月にこども家庭庁が発足し、「こどもまんなか社会」の実現をめざすなか、チャイルドライン支援議員連盟総会が開催されました。子どもが多く時間を過ごす学校における「意見表明」の保障について、チャイルドラインとして提言をとりまとめ、議員、関係省庁と意見交換しました。事前に議連事務局から各省庁に提言内容の説明を行なうことにより、その場で各省庁より提言への回答および説明がありました。また、残された課題について引き続き意見交換などを実施していくこととなりました。



2023年度 提言

「学校における聴かれる権利を保障する ～ 子どもの権利が保障される社会」

1. 学校における意見表明支援制度の導入
2. 生徒指導提要(改訂版)の徹底
3. 学習指導要領の改訂(権利学習)
4. 教職員の働き方改革の推進
5. 1994年5月20日付 文部省(当時)坂元事務次官通知の見直し、新たな通知の発出
6. 社会全体の「子どもの権利」の理解促進
 - (1) 家庭・保護者の「子どもの権利」の理解促進
 - (2) 共同親権など子どもに関連する様々な法制化、制度化にあたっては、子どもの意見を尊重し、子どもの最善の利益が保障されること

陪席

- 厚生労働省 社会・援護局自殺対策推進室室長補佐
- 文部科学省 初等中等教育局児童生徒課生徒指導室長
初等中等教育局教育課程課学校教育官
大臣官房国際課国際協力企画室室長補佐
総合教育政策局教育人材政策課教員免許・研修企画室専門官
初等中等教育局財務課公務改善専門官
- こども家庭庁 長官官房参事官(総合政策担当) 付参事官補佐
成育局母子保健課係長
支援局虐待防止対策課課長補佐
- 法務省 民事局参事官
民事局付

チャイルドライン支援議員連盟名簿

名前	政党名	衆参	選挙区
石橋 林太郎	自由民主党	衆	比例中国
伊東 良孝	自由民主党	衆	北海道7区
江渡 聡徳	自由民主党	衆	青森1区
衛藤 征士郎	自由民主党	衆	大分2区
遠藤 利明	自由民主党	衆	山形1区
大岡 敏孝	自由民主党	衆	滋賀1区
上川 陽子	自由民主党	衆	静岡1区
岸田 文雄	自由民主党	衆	広島1区
工藤 彰三	自由民主党	衆	愛知4区
坂本 哲志	自由民主党	衆	熊本3区
佐々木 紀	自由民主党	衆	石川2区
武部 新	自由民主党	衆	北海道12区
永岡 桂子	自由民主党	衆	茨城7区
長島 昭久	自由民主党	衆	比例東京
野田 聖子	自由民主党	衆	岐阜1区
野中 厚	自由民主党	衆	比例北関東
平井 卓也	自由民主党	衆	比例四国
藤井 比早之	自由民主党	衆	兵庫4区
船田 元	自由民主党	衆	栃木1区
松野 博一	自由民主党	衆	千葉3区
猪口 邦子	自由民主党	参	千葉
今井 絵理子	自由民主党	参	比例
上野 通子	自由民主党	参	栃木
櫻井 充	自由民主党	参	宮城
末松 信介	自由民主党	参	兵庫
松下 新平	自由民主党	参	宮崎
浮島 智子	公明党	衆	比例近畿
河西 宏一	公明党	衆	比例東京
佐藤 英道	公明党	衆	比例北海道
古屋 範子	公明党	衆	比例南関東
山崎 正恭	公明党	衆	比例四国
阿部 知子	立憲民主党	衆	神奈川12区
石川 香織	立憲民主党	衆	北海道11区
泉 健太	立憲民主党	衆	京都3区
伊藤 俊輔	立憲民主党	衆	比例東京
梅谷 守	立憲民主党	衆	新潟6区
枝野 幸男	立憲民主党	衆	埼玉5区
大河原 まさこ	立憲民主党	衆	比例東京
逢坂 誠二	立憲民主党	衆	北海道8区
大島 敦	立憲民主党	衆	埼玉6区
岡本 あき子	立憲民主党	衆	比例東北
金子 恵美	立憲民主党	衆	福島1区

名前	政党名	衆参	選挙区
源馬 謙太郎	立憲民主党	衆	静岡8区
神津 たけし	立憲民主党	衆	比例北陸信越
階 猛	立憲民主党	衆	岩手1区
鈴木 庸介	立憲民主党	衆	比例東京
田嶋 要	立憲民主党	衆	千葉1区
中川 正春	立憲民主党	衆	比例東海
野間 健	立憲民主党	衆	鹿児島3区
原口 一博	立憲民主党	衆	佐賀1区
藤岡 隆雄	立憲民主党	衆	比例北関東
牧 義夫	立憲民主党	衆	比例東海
松木 けんこう	立憲民主党	衆	北海道2区
松原 仁	立憲民主党	衆	東京3区
道下 大樹	立憲民主党	衆	北海道1区
森山 浩行	立憲民主党	衆	比例近畿
山崎 誠	立憲民主党	衆	比例南関東
山田 勝彦	立憲民主党	衆	比例九州
山井 和則	立憲民主党	衆	京都6区
吉田 はるみ	立憲民主党	衆	東京8区
湯原 俊二	立憲民主党	衆	比例中国
渡辺 周	立憲民主党	衆	比例東海
渡辺 創	立憲民主党	衆	宮崎1区
石川 大我	立憲民主党	参	比例
小西 洋之	立憲民主党	参	千葉
高木 真理	立憲民主党	参	埼玉
田名部 匡代	立憲民主党	参	青森
羽田 次郎	立憲民主党	参	長野
福山 哲郎	立憲民主党	参	京都
水野 素子	立憲民主党	参	神奈川1区
宮口 治子	立憲民主党	参	広島
一谷 勇一郎	日本維新の会	衆	比例近畿
金村 龍那	日本維新の会	衆	比例南関東
梅村 みずほ	日本維新の会	参	大阪
嘉田 由紀子	教育無償化を実現する会	参	滋賀
高橋 千鶴子	日本共産党	衆	比例東北
宮本 徹	日本共産党	衆	比例東京
小池 晃	日本共産党	参	比例
田村 智子	日本共産党	参	比例
船後 靖彦	れいわ新選組	参	比例
塩谷 立	無所属	衆	比例東海
鈴木 宗男	無所属	参	比例
寺田 静	無所属	参	秋田
ながえ 孝子	無所属	参	愛媛

敬称略、順不同

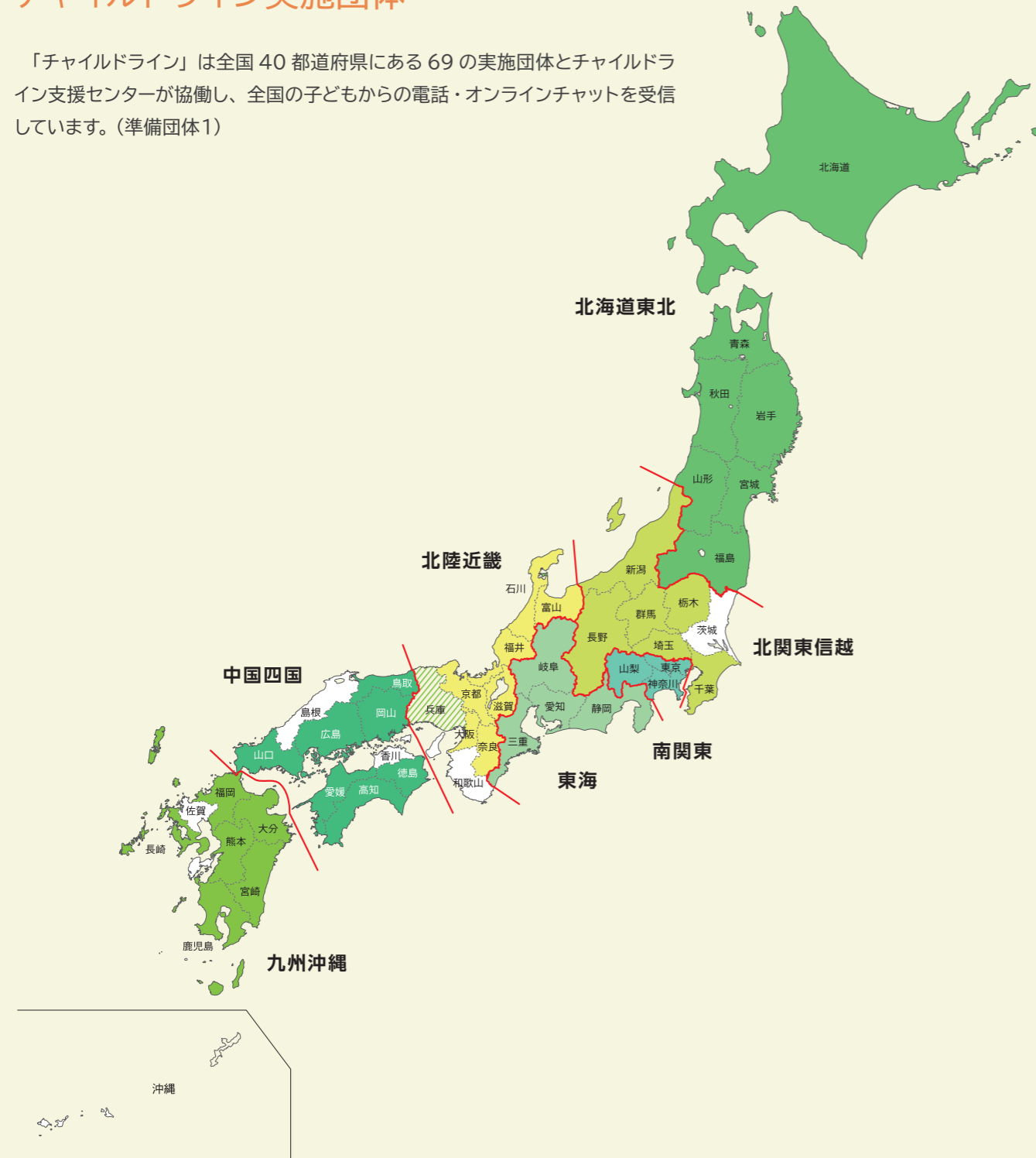
役員

- 会長 野田聖子(自民) 幹事長 浮島智子(公明) 幹事 上川陽子(自民) 長島昭久(自民)
- 副会長 泉健太(立憲) 事務局長 小西洋之(立憲) 阿部知子(立憲) 田嶋要(立憲)
- 事務局次長 鈴木庸介(立憲) 金村龍那(維新) 高橋千鶴子(共産)

チャイルドライン実施体制と運営

チャイルドライン実施団体

「チャイルドライン」は全国40都道府県にある69の実施団体とチャイルドライン支援センターが協働し、全国の子どもからの電話・オンラインチャットを受信しています。(準備団体1)



チャイルドライン実施団体一覧

2024年4月末現在 40都道府県69団体 準備団体1団体

エリア	所在地	チャイルドライン名	団体名	連絡先	
北海道東北	北海道	札幌市	チャイルドラインほっかいどう	認定NPO法人チャイルドラインほっかいどう	011-272-3755
	青森県	青森市	チャイルドラインあおもり	チャイルドラインあおもり	cl.aomori2007@gmail.com
		弘前市	チャイルドラインひろさき	チャイルドラインひろさき	miyashu@jomon.ne.jp
	岩手県	盛岡市	チャイルドラインいわて	チャイルドラインいわて	cl.iwate@gmail.com
	宮城県	仙台市	チャイルドラインみやぎ	NPO法人チャイルドラインみやぎ	022-279-7210
	秋田県	秋田市	チャイルドラインあきた	NPO法人あきた子どもネット	080-5490-1655
	山形県	鶴岡市	チャイルドライン庄内	NPO法人しえば	akihirok@mbe.nifty.com
		福島県	福島市	チャイルドラインふくしま	チャイルドラインふくしま
		郡山市	チャイルドラインこおりやま	チャイルドラインこおりやま	info@cl-koriyama.org

エリア	所在地	チャイルドライン名	団体名	連絡先		
北関東信越	新潟県	新潟市	チャイルドラインにいがた	チャイルドラインにいがた	090-6167-4158	
	栃木県	宇都宮市	チャイルドラインとちぎ	認定NPO法人チャイルドラインとちぎ	028-614-3253	
	群馬県	前橋市	チャイルドラインぐんま	チャイルドラインぐんま	027-289-4365	
		長野市	チャイルドラインながの	NPO法人ながのこどもの癒いきいきプロジェクト	090-9667-0874	
	長野県	上田市	チャイルドラインうえだ	NPO法人シャイン	090-3565-7086	
		諏訪市	チャイルドラインすわ	NPO法人すわ子ども文化ステーション	0266-58-3494	
		佐久市	チャイルドライン佐久	NPO法人チャイルドライン佐久	070-4189-0155	
		安曇野市	チャイルドライン中信	チャイルドライン中信	090-868-3185	
	埼玉県	朝霞市	さいたまチャイルドライン	認定NPO法人さいたまチャイルドライン	scl@jcom.home.ne.jp	
	千葉県	千葉市	チャイルドライン千葉	NPO法人子ども劇場千葉県センター	043-301-7262	
南関東	山梨県	韭崎市	チャイルドラインやまなし	チャイルドラインやまなし	cl@laserpro.jp	
		港区	みなとチャイルドライン	みなとチャイルドライン	090-7284-0378	
	東京都	江東区	とうきょうかわてチャイルドライン	NPO法人こうとう親子センター	03-3632-1717	
		品川区	しながわチャイルドライン	NPO法人しながわチャイルドライン	03-5462-2868	
		目黒区	めぐろチャイルドライン	NPO法人めぐろチャイルドライン	megurochildline@yahoo.co.jp	
		世田谷区	せたがやチャイルドライン	社会福祉法人世田谷ボランティア協会	setagaya-cl@otagaisama.or.jp	
		中野区	チャイルドライン 中野子ども電話	チャイルドライン 中野子ども電話	080-3919-0489	
		杉並区	チャイルドラインすぎなみ	チャイルドラインすぎなみ	childline.suginami@gmail.com	
		八王子市	八王子チャイルドラインココロ	NPO法人八王子チャイルドライン	090-4417-3355	
		立川市	チャイルドラインたちかわ	チャイルドラインたちかわ	cl.tachikawa2@gmail.com	
		武蔵野市	チャイルドラインむさしの	NPO法人チャイルドラインむさしの	080-5679-5100	
		狛江市	こまえチャイルドライン	こまえチャイルドライン	03-3489-4583	
	神奈川県	横浜市	よこはまチャイルドライン	認定NPO法人よこはまチャイルドライン	045-342-0255	
		川崎市	かわさきチャイルドライン	かわさきチャイルドライン	080-6756-7763	
	東海	岐阜県	岐阜市	チャイルドラインぎふ	NPO法人チャイルドラインぎふ	080-1550-6050
		静岡県	焼津市	しずおかチャイルドライン	NPO法人静岡家庭教育サポート協会	054-631-6762
			浜松市	はままつチャイルドライン	はままつチャイルドライン	ykaoiki1@gmail.com
愛知県		名古屋	チャイルドラインあいち	NPO法人チャイルドラインあいち	052-822-2801	
		安城市	チャイルドラインみかわ	NPO法人おやこでのびっこ安城	0566-77-7085	
北陸近畿	三重県	津市	チャイルドラインMIE	認定NPO法人チャイルドヘルプラインMIEネットワーク	info@childhelpinmie.net	
	富山県	富山市	とやまチャイルドライン	とやまチャイルドライン愛ランド	090-3764-3666	
	石川県	金沢市	チャイルドライン・いしかわ	子ども夢フォーラム	076-214-5680	
	福井県	福井市	ふくいチャイルドライン	認定NPO法人福井県子どもNPOセンター	0776-97-8460	
	滋賀県	大津市	しがチャイルドライン	NPO法人CASN	077-537-5922	
	奈良県	奈良市	チャイルドラインなら	NPO法人チャイルドラインなら	0742-20-0202	
	京都府	京都市	チャイルドライン京都	NPO法人チャイルドライン京都	075-585-3038	
		大阪市	チャイルドラインOSAKA	公益社団法人子ども情報研究センター	06-4708-7087	
		吹田市	チャイルドラインすいた	こらぼれチップス	clsuita627@gmail.com	
		富田	チャイルドラインとんだばやし	NPO法人チャイルドラインとんだばやし	080-1415-3699	
		和泉市	チャイルドラインいずみ	いずみこどもAID	izumikodomoid@gmail.com	
		東大阪市	チャイルドラインひがしおおさか	チャイルドラインひがしおおさか	childline.h@gmail.com	
		阪南市	チャイルドラインはらっぱ	NPO法人子どもNPOはらっぱ	072-471-2276	
		鳥取県	倉吉市	チャイルドラインうさぎのみみ	チャイルドラインうさぎのみみ	usaginomimichildline@gmail.com
	岡山県	岡山市	チャイルドラインおかやま	NPO法人チャイルドラインおかやま	086-956-3700	
		広島県	広島市	ひろしまチャイルドライン	NPO法人ひろしまチャイルドライン子どもステーション	082-233-8655
	中国四国	福山市	チャイルドラインびんご	子どもサポネット「ハートフル」	090-8712-1803	
宇部市			チャイルドラインやまくち	NPO法人子ども劇場山口県センター	0836-32-4287	
山口県		岩国市	チャイルドライン岩国ステーション	チャイルドライン岩国ステーション	080-1636-1135	
		下関市	チャイルドラインしものせき	チャイルドラインしものせき	083-256-6888	
徳島県		とくしまチャイルドライン	とくしまチャイルドライン	088-669-2776		
愛媛県		松山市	子ども電話「ひびき」	チャイルドライン ハートコール・えひめ	080-923-9558	
高知県	高知市	チャイルドラインこうち	チャイルドラインこうち	090-2788-9977		
九州沖縄	福岡県	北九州市	チャイルドライン北九州	NPO法人チャイルドライン北九州	090-7924-5036	
		福岡市	チャイルドライン「もしもしキモチ」	認定NPO法人チャイルドライン「もしもしキモチ」	kimochi2@coral.ocn.ne.jp	
	長崎県	長崎市	チャイルドラインながさき	NPO法人チャイルドラインながさき	095-801-5521	
		佐世保市	チャイルドラインさせば	チャイルドラインさせば	0956-24-0214	
	大分県	大分市	チャイルドラインおおいた	チャイルドラインおおいた	090-3322-3699	
	熊本県	阿蘇郡	チャイルドライン熊本	チャイルドライン熊本	090-9269-8510	
	宮崎県	宮崎市	チャイルドラインみやざき	NPO法人チャイルドラインみやざき	0985-41-8228	
鹿児島県	鹿児島市	チャイルドラインかごしま	チャイルドラインかごしま	cl-kagoshima_200926@po3.synapse.ne.jp		

準備団体	兵庫県	姫路市	チャイルドラインひょうご	チャイルドラインひょうご	080-7963-2092
------	-----	-----	--------------	--------------	---------------

全国各地のチャイルドライン実施団体は独立した団体として、それぞれの地域の子どもの寄り添う活動を大切にしています。電話・オンラインチャットで子どもを受けとめるほか、担い手を養成する研修や継続的な研修も行います。また受信した「子どもの声」を「個人を特定しないデータ」として、統一のデータベースに集約します。そして所在している地域における子どもへの広報、社会発信、行政や子ども支援団体との連携なども担っています。

運営形態	団体数
任意団体	32 団体
NPO 法人	27 団体
認定 NPO 法人	7 団体
公益社団法人	2 団体
社会福祉法人	1 団体
合計	69 団体

全国のボランティア

ボランティア数 1,972 名 (2024 年 3 月 現在)

昨年度 (1,812 名) より 160 名増となりました。

ボランティアとして子どもの声を聴き、寄り添う「受け手」、受け手のケアを担う「支え手」はそれぞれ全国各地のチャイルドラインが実施する養成講座を受講します。日々の振り返りの中で学び、さらに継続的に研修を受講することで電話やオンラインチャットの質の向上に努めています。

実施団体の活動資金

実施団体の年間支出額は約 9,000 万円、チャイルドライン支援センターと合わせると 1 億 7 千万円ほどになりました。実施団体は電話やオンラインチャットの拠点の維持、地域の子どもの広報、ボランティア育成、社会発信などを担い、そのための資金調達もしています。それぞれの地域で多くの個人・企業・行政のご支援により活動しています。

支出額	団体数	比率
1,000 万円以上	1 団体	1.4%
500 ~ 999 万円	2 団体	2.9%
250 ~ 499 万円	3 団体	4.3%
100 ~ 249 万円	26 団体	37.1%
50 ~ 99 万円	10 団体	14.3%
50 万円未満	27 団体	38.6%

運営形態、ボランティア、活動資金は 2024 年 3 月現在



チャイルドライン支援センター

チャイルドライン支援センターは認定 NPO 法人として、子どもの生きやすい社会実現をめざし活動しています。チャイルドラインが持続的に機能するよう実施団体を支援、整備し、受信した子どもの声のデータをもとに集計、分析し、社会に提言、啓発を行っています。またチャイルドライン支援議員連盟、CHI (Child Helpline International)、「広げよう!子どもの権利条約キャンペーン」、SNS 相談事業コンソーシアム、子どもを支援する個人・団体と連携しています。

会員数 正会員:個人 34 名 団体 71 支援会員:個人 28 名 団体 3

役員一覧

2024 年 6 月末日現在

代表理事	平井 貴美子	チャイルドラインおおい代表
専務理事	関戸 真紀	いずみこども AID (チャイルドラインいずみ)
常務理事	福本 佳之	認定 NPO 法人チャイルドラインとちぎ理事長
理事	青木 高	公益社団法人日本フィランソロピー協会事務局長
理事	伊勢 志穂	チャイルドラインいわて事務局長
理事	金子 由美子	NPO 法人さいたまユースサポートネット副代表
理事	神谷 由美子	NPO 法人おやこでのびっこ安城理事長 (チャイルドラインみかわ)
理事	小松 久子	チャイルドラインすぎなみ代表
理事	須藤 充弘	チャイルドラインあおもり代表理事 (共同)
理事	中村 幸恵	NPO 法人子ども劇場千葉県センター理事 (チャイルドライン千葉)
理事	根本 賢一	NPO 法人チャイルドライン京都理事長
監事	河合 将生	NPO 組織基盤強化コンサルタント office musubime 代表
監事	林 大介	浦和大学社会学部准教授 子どもの権利条約ネットワーク事務局長

財務状況 2023 年度 (2023 年 4 月 1 日 ~ 2024 年 3 月 31 日)

経常収益	受取会費	2,260,000 円
	受取寄付金	23,473,327 円
	受取補助金・助成金	64,202,012 円
	事業収益その他 (資料代)	6,183,312 円
	(孤独孤立協力金)	2,770,952 円
	(協賛金)	1,000,000 円
	(参加費・その他)	117,167 円
経常収益計	100,006,770 円	

経常費用	社会的認識向上	18,360,963 円
	設立運営支援	29,812,951 円
	研修	13,504,741 円
	社会発信	8,305,149 円
	社会基盤の開発整備	2,072,475 円
	管理費	6,381,468 円
	経常費用計	78,437,747 円

ご支援・ご協力一覧

チャイルドライン支援センターは、ミッションに賛同する個人・法人のみなさまからのご寄付、会費、補助金、助成金、協働、ボランティアにより活動を支えられています。多くの方のご支援ご協力に心より感謝申し上げます。

寄付・協賛（法人、団体のみなさまのみ掲載、法人支援会員含む 敬称略、順不同）

日本電信電話株式会社	株式会社東京レコード (Rockon Social Club)
株式会社 NTT ドコモ	宗教法人 真如苑
ソフトバンク株式会社	KDDI株式会社
三和グループ社会貢献倶楽部	MS & AD ゆにぞんスマイルクラブ
株式会社オプテージ	チャイルドライン支援議員連盟
シクミオ株式会社	つながる募金 (ソフトバンク)
東京海上ビジネスサポート株式会社	一般社団法人ほのぼの運動協議会
よつやわ	株式会社ユサブル (岩本光弘さん)
株式会社ポリッシュ	一般財団法人 全国学生保障援助会
株式会社ハンプフーズジャパン	若松測量設計株式会社
医療法人キュレスト 山森小児科	鎮西学院高等学校
医療法人社団 ゆずり葉	株式会社佐藤建設
すぎやまこどもクリニック	まえはら小児科
医療法人蒼会	リンナイ株式会社
まんだら堂	リンバル株式会社
429DOVE チャリティーライブ	Yahoo! 募金
清松総合鐵工株式会社	ララプレイひうみ
特定非営利活動法人元気なかま	柳ヶ浦高校
コープおおいた南春日店	明豊中学高等学校
ロイヤルクリーナー株式会社リファイン大分	



補助

厚生労働省 自殺防止対策事業「子どもの自死予防そのための対応強化事業」

助成

公益財団法人 JKA 競輪補助事業「子どもとその親が幸せに暮らせる社会を創る活動」

日本労働組合総連合会 連合・愛のキャンパ

「子どもの声を聴き、子どもたちが生きやすい社会を目指すチャイルドライン事業」

後援

「2023 チャイルドライン全国キャンペーン」「2024 チャイルドライン全国キャンペーン」

こども家庭庁 文部科学省 総務省

チャイルドライン支援議員連盟 社会福祉法人全国社会福祉協議会 公益社団法人日本小児科医会

公益社団法人日本医師会 一般社団法人いのちの電話 特定非営利活動法人日本 NPO センター

連携・協力

NTT コミュニケーションズ株式会社	一般財団法人児童健全育成推進財団
株式会社ドコモビジネスソリューションズ	特定非営利活動法人フリースクール全国ネットワーク
株式会社ジーニー (Chamo Chat)	#学校ムリでもここあるよキャンペーン
広げよう!子どもの権利条約キャンペーン	SNS 相談事業コンソーシアム
NPO 法人セイエン	NPO 法人 OVA
全日本自治団体労働組合	東京ボランティア・市民活動センター
C&C ビジネスサービス株式会社	広がれボランティアの輪
株式会社ポプラ社	株式会社ムーンファクトリー
コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社	株式会社ティピカル・ジャパン
イノウデザイン株式会社	方南グラフィック
有限会社トランスプロジェクト	茨城県教育委員会
有限会社考学舎	兵庫県教育委員会
株式会社アイテム	神戸市教育委員会
ツナガルラボ	和歌山県教育委員会
株式会社三門印刷所	島根県教育委員会
雨宮国際特許事務所	香川県教育委員会
税理士法人未来総合会計事務所	佐賀県教育委員会
社会保険労務士法人 CANAL	熊本県教育委員会
株式会社 USTUS	熊本市教育委員会
公益社団法人日本小児科医会	沖縄県教育委員会

(敬称略、順不同)

パブリシティ

新聞・TV・インターネット

河北新報オンライン	【主な相談窓口】もし悩みがあったら相談してみませんか	2023年5月19日	相談窓口として情報掲載
PR TIMES	子どもたちの心の支援へ Rockon Social Club 「DON'T WORRY」×チャイルドライン」プロジェクト	2023年6月15日	相談窓口として情報掲載
朝日新聞デジタル	防止法施行から10年、いじめ増加傾向続く コロナ中も過去最多更新	2023年6月25日	相談窓口として情報掲載
ニフティニュース	ryuchellさん死去「息子さんのお誕生日翌日なんて…」 ネット絶句、当日は姉2人の誕生日	2023年7月13日	相談窓口として情報掲載
NHK ニュース	夏休み明け 子どもの悩み相談 人数を増やして対応	2023年8月23日	相談窓口として情報掲載
TBS NEWS DIG	子どもの悩みに電話やチャットで相談に応じる「チャイルドライン」のキャンペーン始まる	2023年8月23日	相談窓口として情報掲載
khb 東日本放送	夏休み明けに合わせ子どもの悩み相談の態勢を強化 チャイルドライン	2023年8月23日	相談窓口として情報掲載
Yahoo! ニュース	夏休み明けを前に『子どもの人権を守る』ホットラインを強化 子どもの相談を受け付けへ	2023年8月24日	相談窓口として情報掲載
NHK ニュース	学生たちがワークシヨップ 安心して過ごせる居場所作するには	2023年8月25日	相談窓口として情報掲載
NHK	こどもアバターほっとラインとは 学校に行くことに不安な子どもの悩み相談先も掲載	2023年8月31日	相談窓口として情報掲載
Yahoo! ニュース	新学期 不安や悩みを抱え込まないで「チャイルドライン」に相談を	2023年9月1日	相談窓口として情報掲載
MBC 南日本放送	受験きっかけで不登校に… 母娘が見つけた「秘密基地」ヤングケアラーなど子どもの第3の居場所に	2023年9月1日	相談窓口として情報掲載
NHK	児童虐待の対応件数 東海3県でも高水準 相談するには？	2023年9月12日	相談窓口として情報掲載
NHK ニュース	中学3年自殺 第三者委「いじめが自殺の原因と考えられない」	2023年9月30日	相談窓口として情報掲載
MBS 毎日放送	『責任とらない組織が子どもに教育している』 大津いじめ自殺から12年 遺族の父が会見	2023年10月12日	相談窓口として情報掲載
朝日新聞デジタル	神戸の中3男子自殺か 市教委、第三者委を設置へ いじめの有無調査	2023年10月28日	相談窓口として情報掲載
中日新聞 Web	交際中？高校生の男女が転落死か 岡崎、「一緒に自殺」趣旨のメール	2023年11月24日	相談窓口として情報掲載
BIGLOBE ニュース	Rockon Social Club チャイルドライン 子どもたちを支援する 「DON'T WORRY チャリティ」…	2023年12月8日	相談窓口として情報掲載
教育新聞	孤独・孤立相談ダイヤルを実施 年末年始を挟みより長く	2023年12月9日	相談窓口として情報掲載
au Web ポータル	小中高生の自殺507人、コロナで禍で孤立深め対人関係に悩みか… 「SOSの出し方教育」など	2024年1月28日	相談窓口として情報掲載
J-CAST ニュース	芦原妃名子さん死去「今、誰かを責めようとしてる人たち。もう本当にやめて…	2024年1月30日	相談窓口として情報掲載
選挙ドットコム	子どもの「きつい」「つらい」の相談先について	2024年1月31日	相談窓口として情報掲載
ねとらぼ	日本テレビ、芦原妃名子さんの訃報「重く受け止め」 関係者個人への誹謗中傷やめるよう呼びかけ	2024年1月31日	相談窓口として情報掲載
MBS 毎日放送	制服姿の10代女性2人がマンションから飛び降りか 1人死亡 大阪・吹田市	2024年2月14日	相談窓口として情報掲載
中日新聞 Web	性的被害含むいじめ10件 福岡の東海大付属高2死亡	2024年2月21日	相談窓口として情報掲載
朝日新聞デジタル	いじめ自殺ほめめかすノートに担任が「花丸」被害女児側が市を提訴	2024年2月28日	相談窓口として情報掲載
選挙ドットコム	自殺対策啓発活動に参加	2024年3月20日	相談窓口として情報掲載
朝日新聞デジタル	昨年の自殺者、2万1837人 男性は2年連続増 厚労省	2024年3月30日	相談窓口として情報掲載
宮崎日日新聞	休み明け不安 気軽に相談を チャイルドライン22日から態勢強化	2023年8月19日	紹介 情報掲載
秋田魁新報	夏休み明けのつらさ、抱え込まなくていいよ 子どもたちに伝えたいこと	2023年8月23日	紹介 情報掲載
南日本新聞	夏休み明け 不安打ち明けて 子どもの相談態勢強化	2023年8月28日	紹介 情報掲載
読売新聞	2023年の自殺者2万1818人…会社員・自営業など30～60代の男性増加	2024年1月26日	紹介 情報掲載

雑誌・書籍・刊行物・資料

西東社	『ミラクルガール相談室 女子のトリセツ スマイル days』	2023年5月	相談窓口として情報掲載
トゥーヴァージンズ	『ソリティア』	2023年7月	相談窓口として情報掲載
国民生活センター	『2024年版くらしの豆知識』	2023年9月	相談窓口として情報掲載
全国社会福祉協議会	『月刊福祉11月号』	2023年11月	デジタルでつながる福祉
フリー・ザ・チルドレン・ジャパン	『ウェルビーイングな暮らしをおくるためのヒント集』	2023年11月	相談窓口として情報掲載
トゥーヴァージンズ	『HEARTSTOPPER 5巻』	2023年12月	相談窓口として情報掲載
光文社	『毒母は連鎖する』	2023年12月	相談窓口として情報掲載
あかね書房	『10代のカラダのハテナ』	2023年12月	相談窓口として情報掲載
あかつき教育図書	『My Compass』	2024年度	相談窓口として情報掲載
トゥーヴァージンズ	『ニック・アンド・チャーリー』	2024年1月	相談窓口として情報掲載
ライツ社	『放課後ミステリクラブ3 動くカメの銅像事件』	2024年2月	相談窓口として情報掲載
オレンジページ	『小学生 おまもり手帖』	2024年3月	相談窓口として情報掲載
葛飾区子育て支援部子育て政策課	『葛飾区子ども・若者応援ガイド2024』	2024年3月	相談窓口として情報掲載
開隆堂出版	『中学校家庭科教科書』	2025年度	相談窓口として情報掲載
帝国書院	『高等学校 公共』	2027年度	相談窓口として情報掲載

編集後記

2023年はこども家庭庁が発足し、「こどもまんなか社会」の実現を目指して社会が動き出しました。一方で、子ども若者の自殺者数が高止まりしている現実を前に、何とかしなければならぬ、という焦燥感に駆られます。子どもの「声」を直接聴いているチャイルドラインには、さまざまな困りごとを抱え、迷い、不安な状態にある子どもの声が届いています。そして、コロナ禍においてコミュニケーションが制限され、体験機会を奪われたことが、子どもたちの心の成長や、人間関係構築に影響を与えているということを感じさせられます。子どもの声を聴いたおとなの責任として、子どもの声を分析し、私たちおとなにできること、しなければならないことを整理し、子どもの生きやすい社会実現に向けて、みなさまと連携、協力しながらこれからも活動を続けてまいります。

「2024 チャイルドライン年次報告」の発行にあたり、活動にご支援ご協力いただいたみなさま、ともに活動している全国のチャイルドライン実施団体に心より感謝いたします。

特定非営利活動法人（認定NPO）チャイルドライン支援センター
事務局長 向井晶子

2024チャイルドライン年次報告
CHILDLINE ANNUAL REPORT 2024

発行日：2024年8月20日 第1版 第1刷

発行：特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター（認定NPO）

〒162-0808 東京都新宿区天神町14 神楽坂藤井ビル5階

TEL：03-5946-8500 FAX：03-5946-8501

E-mail：info@childline.or.jp URL：https://childline.or.jp

表紙・レイアウト・デザイン：イノウデザイン株式会社

印刷製本：株式会社グラフィック

※無断で複製・転載することを禁じます



チャイルドライン®